

**京丹波町高齢者福祉計画及び
第10期介護保険事業計画
策定に係るアンケート調査結果**

概要

令和8年3月

京丹波町

目次

第1章 調査の目的と実施概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 実施概要	1
3. 調査結果の見方.....	1
第2章 調査結果	2
I-I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2
○ 調査対象者の属性.....	2
問1. 家族や生活状況について.....	4
問2. 運動・外出について.....	7
問3. 食べることについて.....	10
問4. 毎日の生活について.....	11
問5. 地域での活動について.....	12
問6. 就労について.....	13
問7. たすけあいについて.....	14
問8. 健康について.....	14
問9. 認知症について.....	17
問10. 京丹波町の高齢者福祉施策について.....	17
I-II 生活機能評価	19
1. 生活機能評価手法の概要.....	19
(1) 生活機能.....	19
(2) 老研式活動能力指標.....	20
2. 評価結果	22
II 在宅介護実態調査	26
A票. 調査対象者について.....	26
B票. 主な介護者の方について.....	34

第1章 調査の目的と実施概要

1. 調査の目的

本調査は、令和9年度～11年度までを計画期間とする「京丹波町高齢者福祉計画及び第10期介護保険事業計画」の策定にあたり、町内の高齢者等の生活実態や健康状態等を把握し、これを計画策定の基礎資料とするために実施したものです。

2. 実施概要

(1) 調査の対象者と配布数

調査の対象者と配布数について、整理すると次のとおりです。

調査名	対象者	配布数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	要介護認定者以外の 65歳以上	1,000	678 ※有効回収数 677	67.8% (前回 66.0%)
在宅介護実態調査	在宅の要介護認定者	497	248 ※有効回収数 245	49.9% (前回 55.4%)

(2) 調査方法

郵送による配布・回収

(3) 抽出基準日

令和7年12月24日

(4) 調査期間

令和8年1月16日(金)～1月30日(金)

3. 調査結果の見方

◇タイトル右には、設問に応じ、【SA】(単数回答)、【MA】(複数回答)、【FA】(自由記述)を示しています。

◇各設問のカテゴリー(選択肢)等について、表現を短縮・簡略化している場合があります。

◇集計結果のグラフのnの値は、当該設問の回答者数を示しています。

◇集計結果のグラフ・表における“無回答”には、当該設問への無回答の他、回答規則違反(例えば、SAの設問における複数回答等)の件数(票数)が含まれます。

◇集計結果のグラフ・表における比率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出・表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。

◇表における 表示はその種別の第一位の項目(無回答を除く)を示しています。

第2章 調査結果

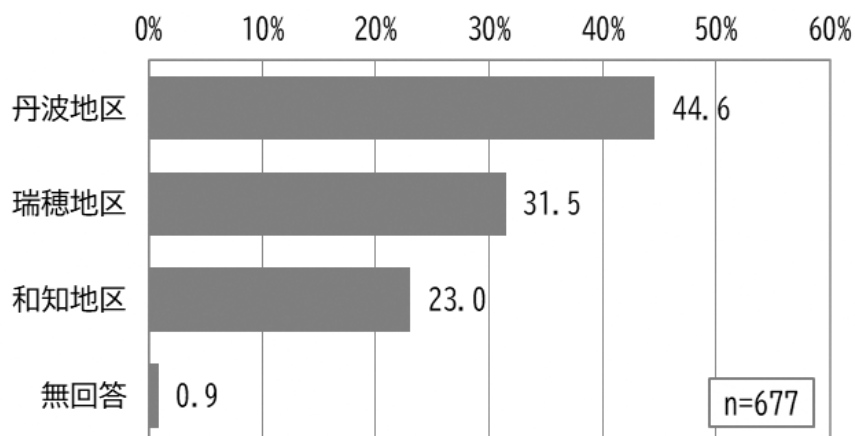
I - I 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

※生活機能評価に関する設問は、「I - II 生活機能評価」に結果をまとめています。

○ 調査対象者の属性

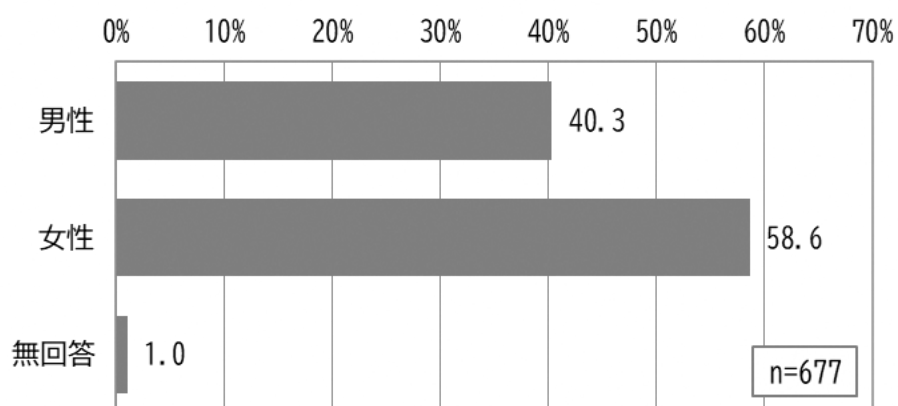
Q1. 居住地区

【SA】



Q2. 性別

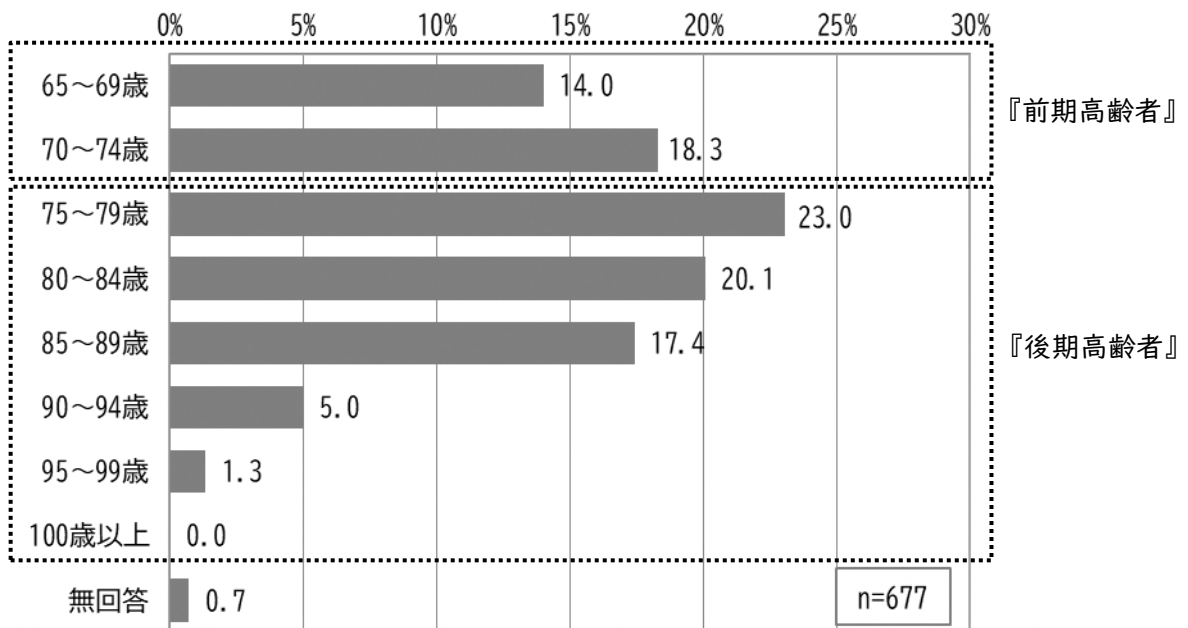
【SA】



Q3. 年齢

【SA】

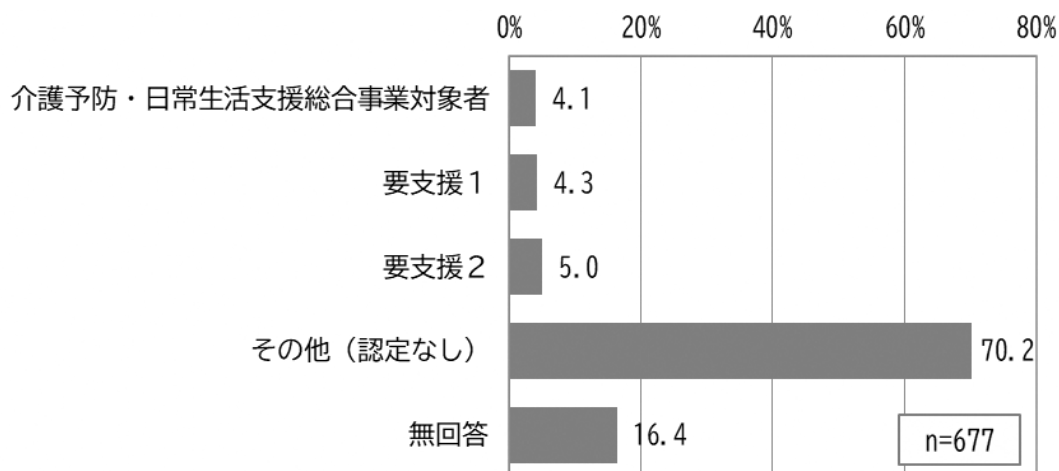
○「65～69歳」と「70～74歳」を合わせた『前期高齢者』が32.3%、75歳以上の『後期高齢者』が66.8%となっています。



Q4. 要介護状態区分

【SA】

○「その他（認定なし）」が70.2%で最も高く、次いで「要支援2」が5.0%、「要支援1」が4.3%の順となっています。

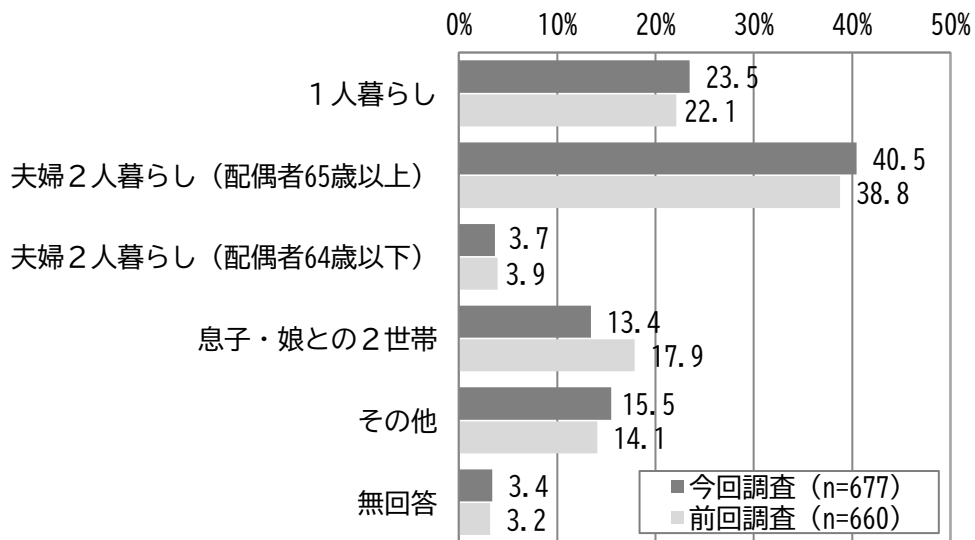


問1. 家族や生活状況について

Q1. 家族構成

【SA】

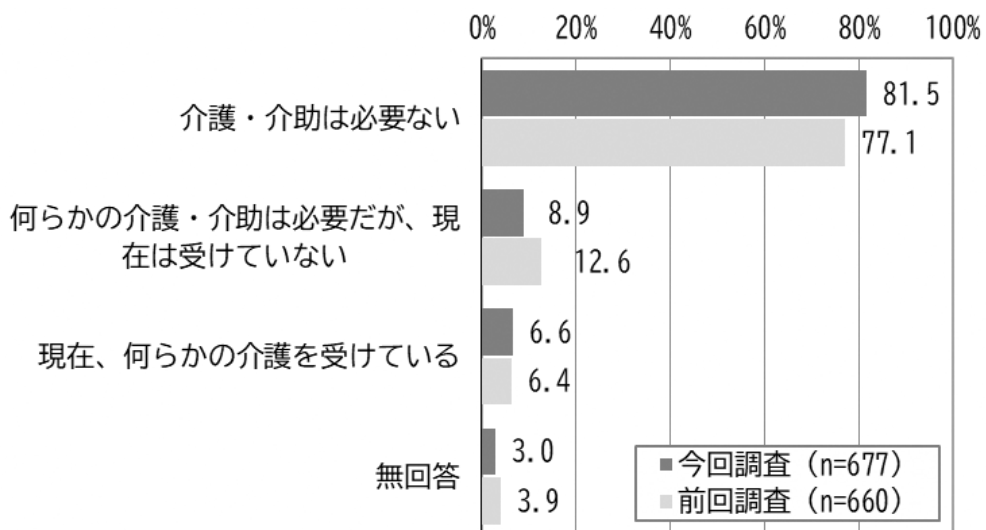
○「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が40.5%で最も高く、次いで「1人暮らし」が23.5%、「息子・娘との2世帯」が13.4%の順となっています。



Q2. 介護・介助を必要としているか

【SA】

○「介護・介助は必要ない」が81.5%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.9%、「現在、何らかの介護を受けている」が6.6%の順となっています。

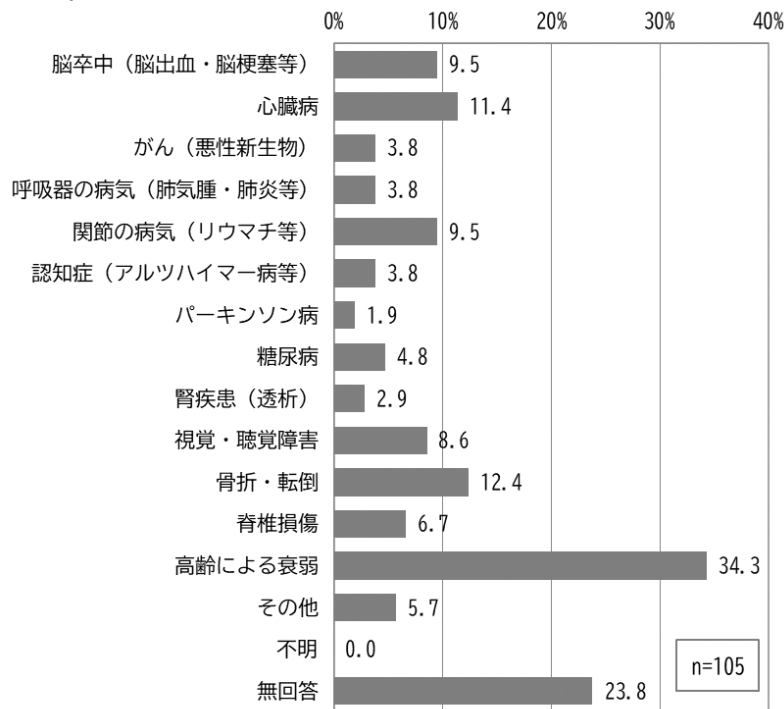


Q2-1. 介護・介助が必要になった原因

【MA】

(Q2において「介護・介助は必要ない」以外を選択した方限定)

○「高齢による衰弱」が34.3%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が12.4%、「心臓病」が11.4%の順となっています。

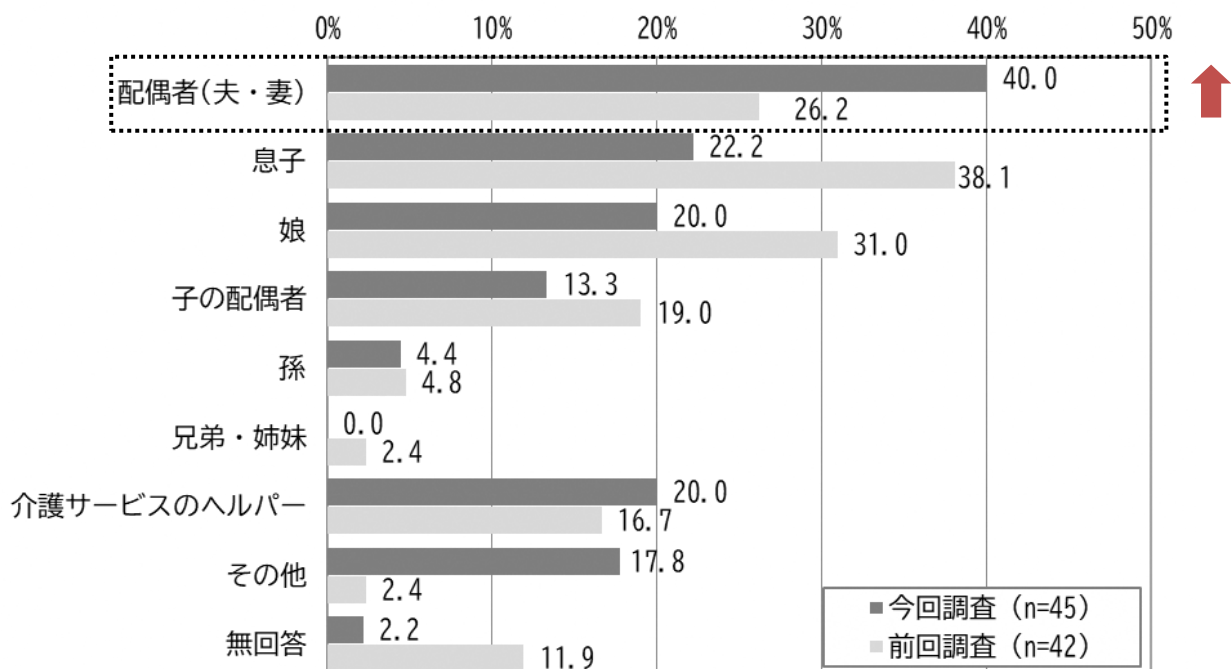


Q2-2. 主な介護・介助者

【MA】

(Q2において「現在、何らかの介護を受けている」を選択した方限定)

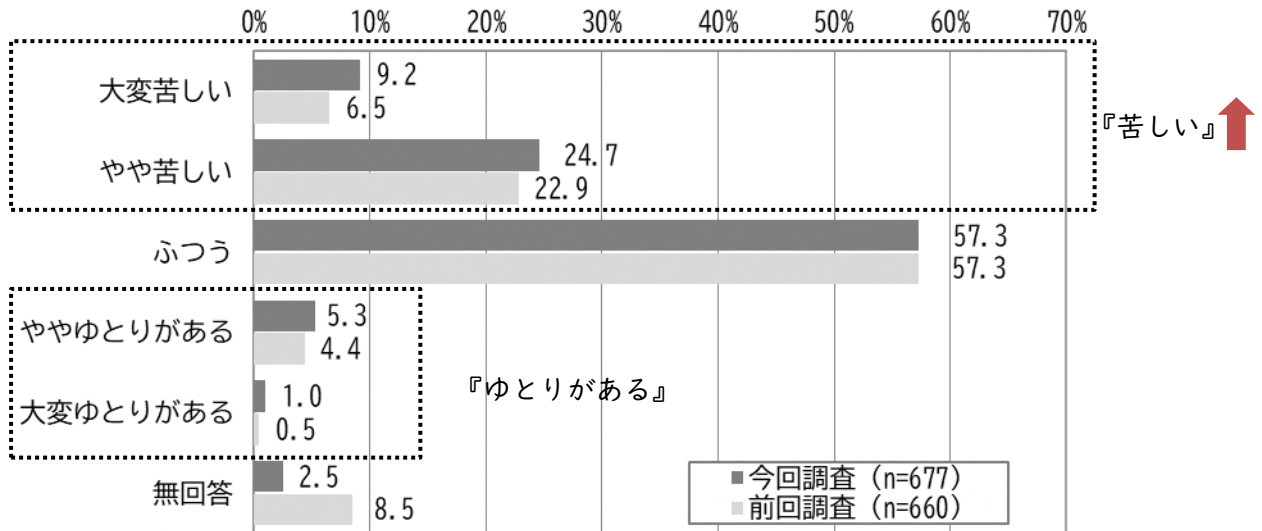
○「配偶者(夫・妻)」が40.0%で最も高く、次いで「息子」が22.2%、「娘」と「介護サービスのヘルパー」がともに20.0%の順となっており、前回調査に比べ「配偶者(夫・妻)」が13.8ポイント増加しています。



Q3. 現在の暮らしの経済的状況

【SA】

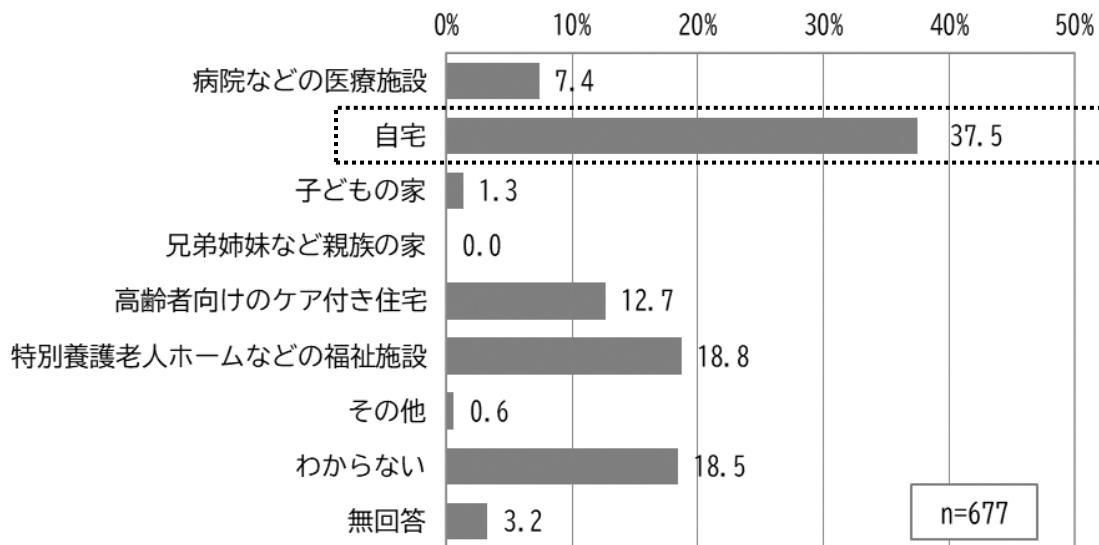
- 「ふつう」が57.3%、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が33.9%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』が6.3%となっています。
- 前回調査に比べ『苦しい』は4.5ポイント増加しています。



Q5. 介護が必要になったとき、生活したい場所

【SA】

- 「自宅」が37.5%で最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの福祉施設」が18.8%、「わからない」が18.5%の順となっています。

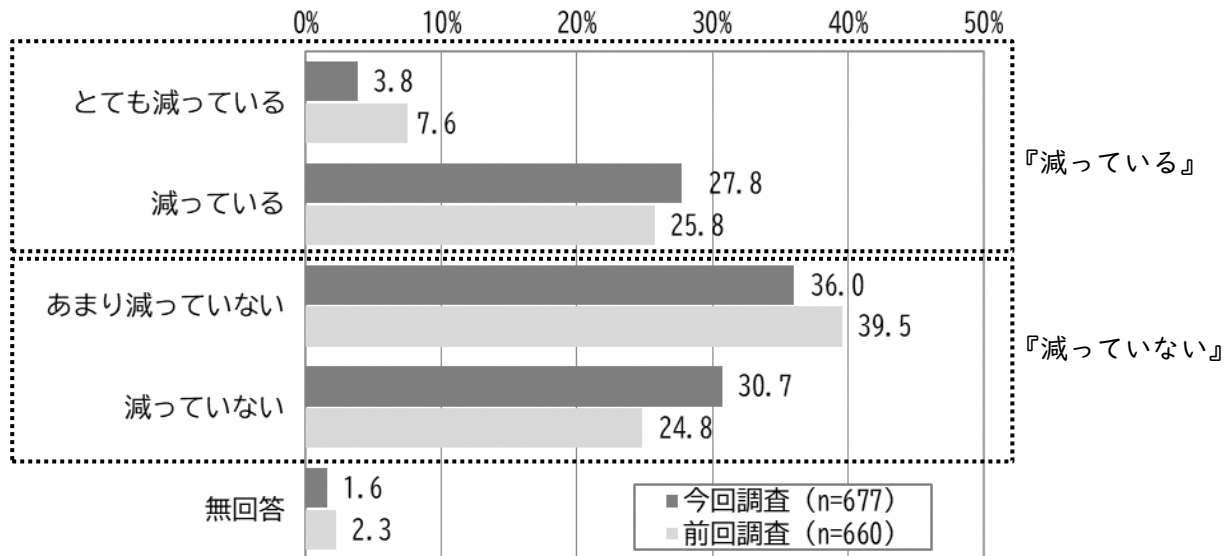


問2. 運動・外出について

Q7. 昨年と比べた外出回数

【SA】

○「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』が31.6%、「あまり減っていない」と「減っていない」を合わせた『減っていない』が66.7%となっています。

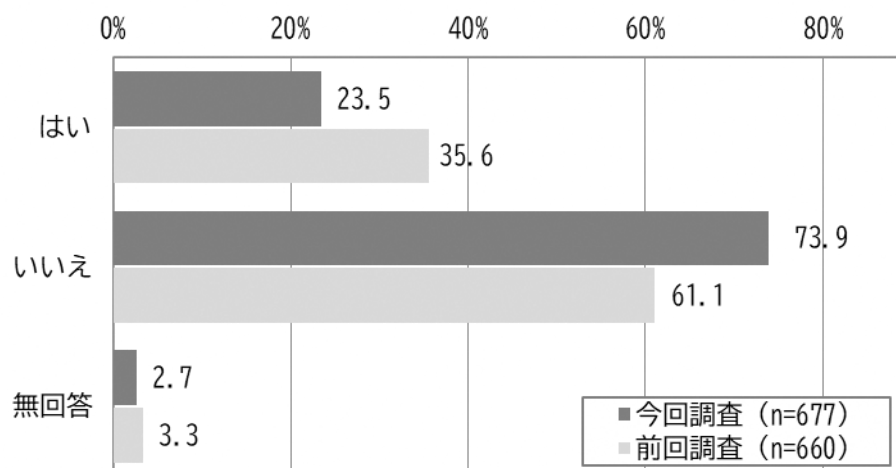


Q8. 外出を控えているか

【SA】

○「いいえ」が73.9%となっています。

○前回調査に比べ「いいえ」が12.8ポイント増加しています。

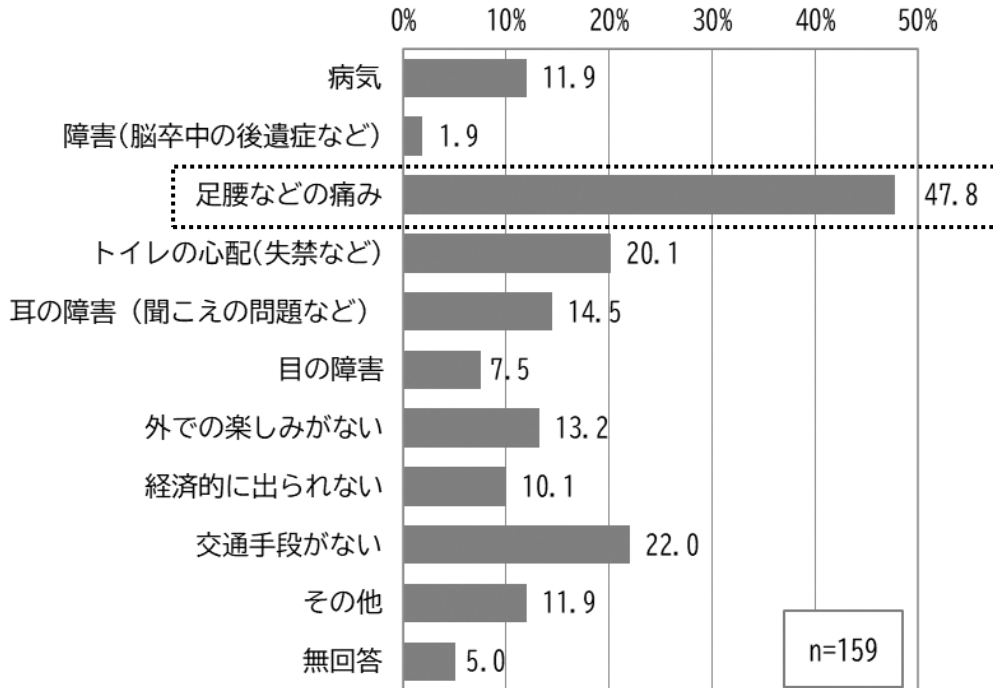


Q8-1. 外出を控えている理由

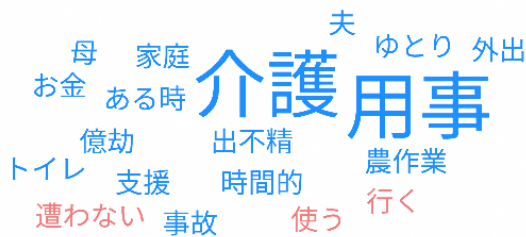
【MA】

(Q8で「はい(外出を控えている)」を選択した方限定)

○「足腰などの痛み」が47.8%で最も高く、次いで「交通手段がない」が22.0%、「トイレの心配(失禁など)」が20.1%の順となっています。「その他」は、介護のためという意見が多くみられます。



【その他】



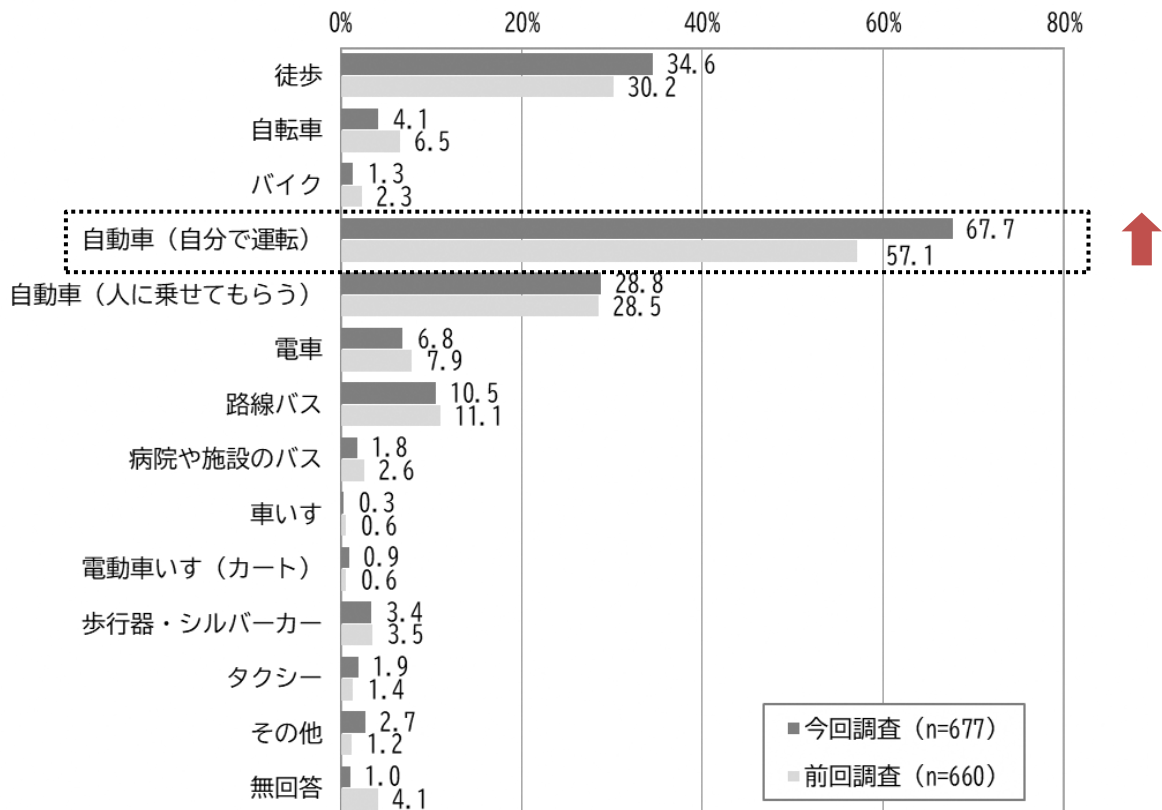
※単語出現頻度の高さを文字サイズで示しています。

Q9. 外出する際の移動手段

【MA】

○「自動車（自分で運転）」が67.7%で最も高く、次いで「徒歩」が34.6%、「自動車（人に乗せてもらう）」が28.8%の順となっています。

○前回調査に比べ「自動車（自分で運転）」が10.6ポイント増加しています。

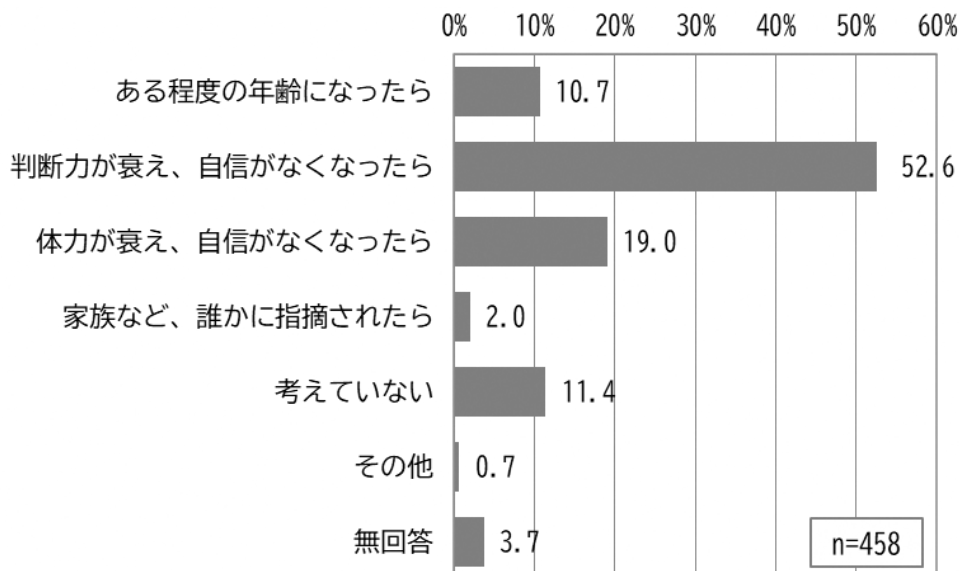


Q9-1. 運転免許を返納する時期

【SA】

（Q9で「自動車（自分で運転）」を選択した方限定）

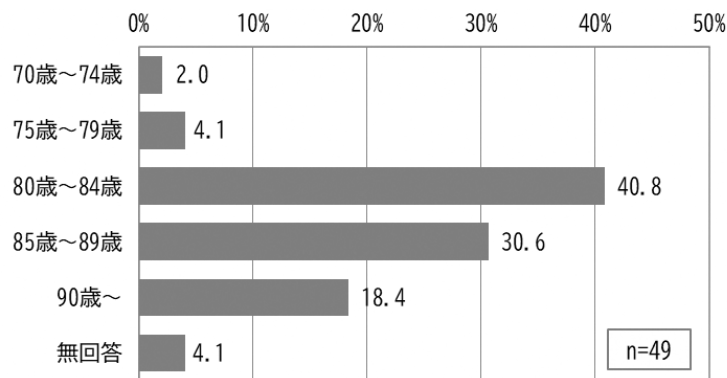
○「判断力が衰え、自信がなくなったら」が52.6%で最も高く、次いで「体力が衰え、自信がなくなったら」が19.0%、「考えていない」が11.4%の順となっています。なお、「ある程度の年齢になったら」は10.7%となっています。



I - I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

(Q9-1で「ある程度の年齢になったら」を選択した方限定)

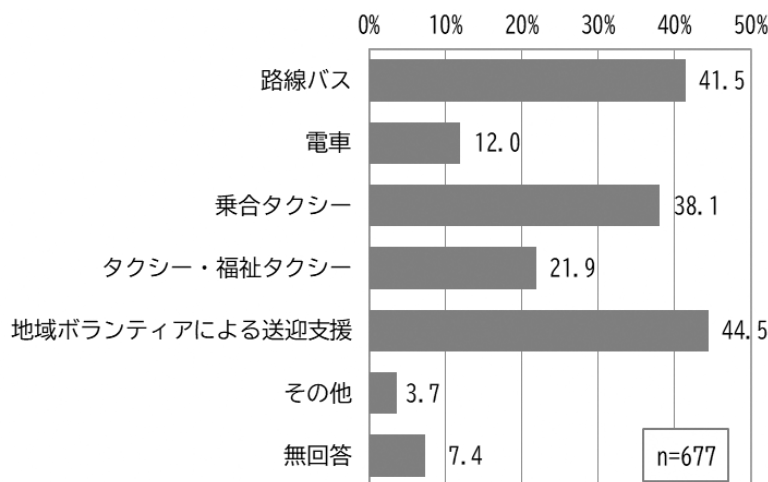
【返納を考えている年齢】



Q10. あれば良い交通手段

【MA】

○「地域ボランティアによる送迎支援」が44.5%で最も高く、次いで「路線バス」が41.5%、「乗合タクシー」が38.1%の順となっています。

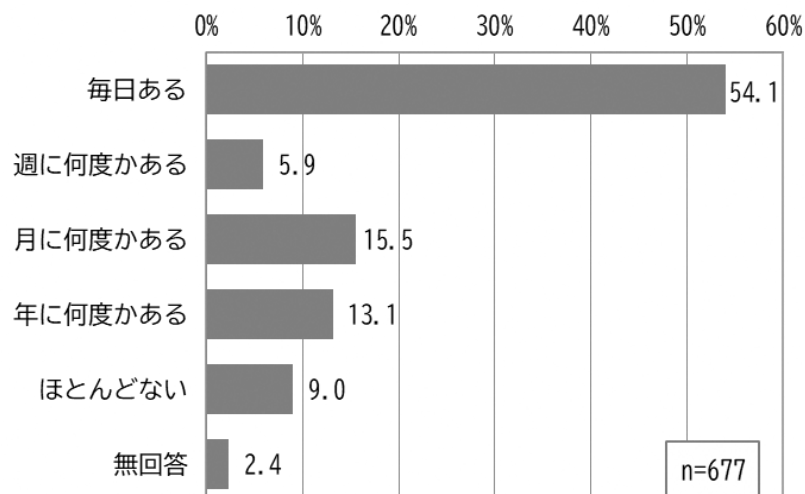


問3. 食べることについて

Q8. 誰かと食事をとにもする機会の有無

【SA】

○「毎日ある」が54.1%で最も高く、次いで「月に何度かある」が15.5%、「年に何度かある」が13.1%の順となっています。なお、「ほとんどない」は9.0%となっています。

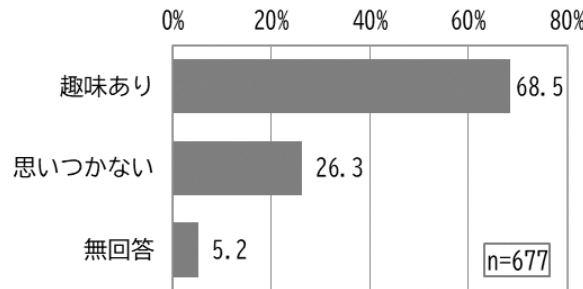


問4. 毎日の生活について

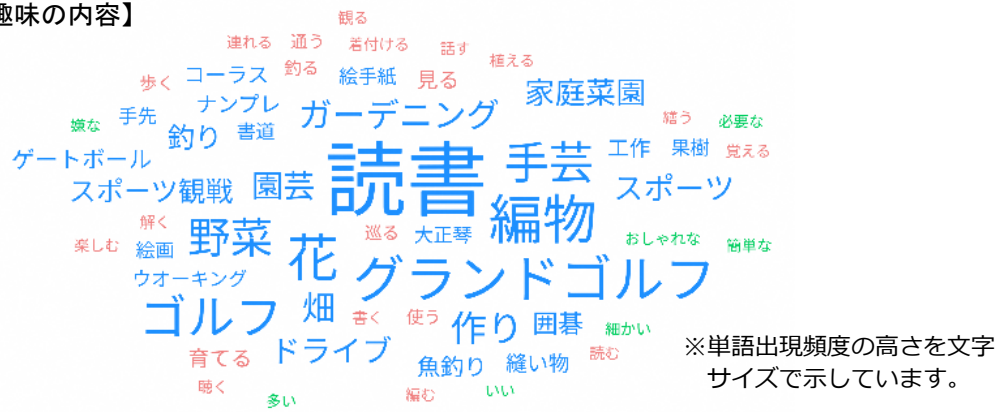
Q17. 趣味はあるか

【SA】

○「趣味あり」が68.5%となっています。



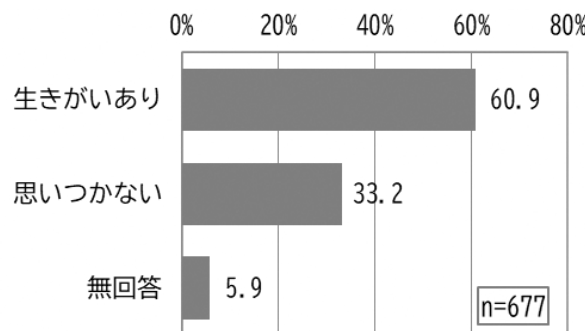
【趣味の内容】



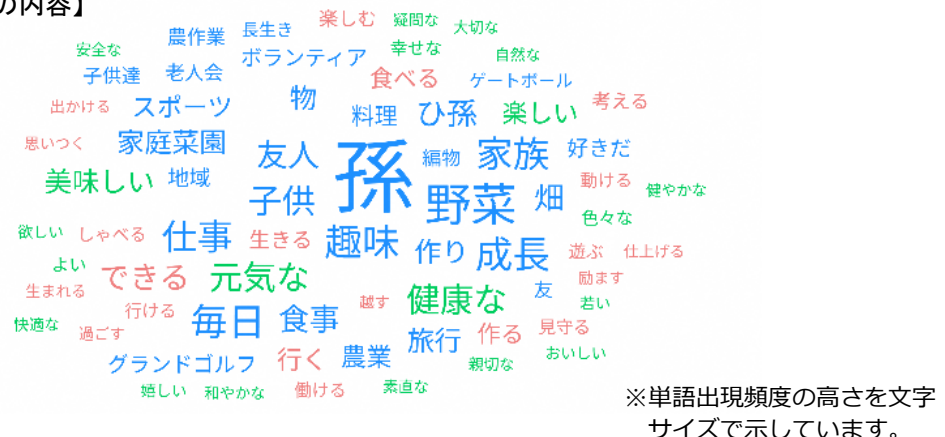
Q18. 生きがいはあるか

【SA】

○「生きがいあり」が60.9%となっています。



【生きがいの内容】

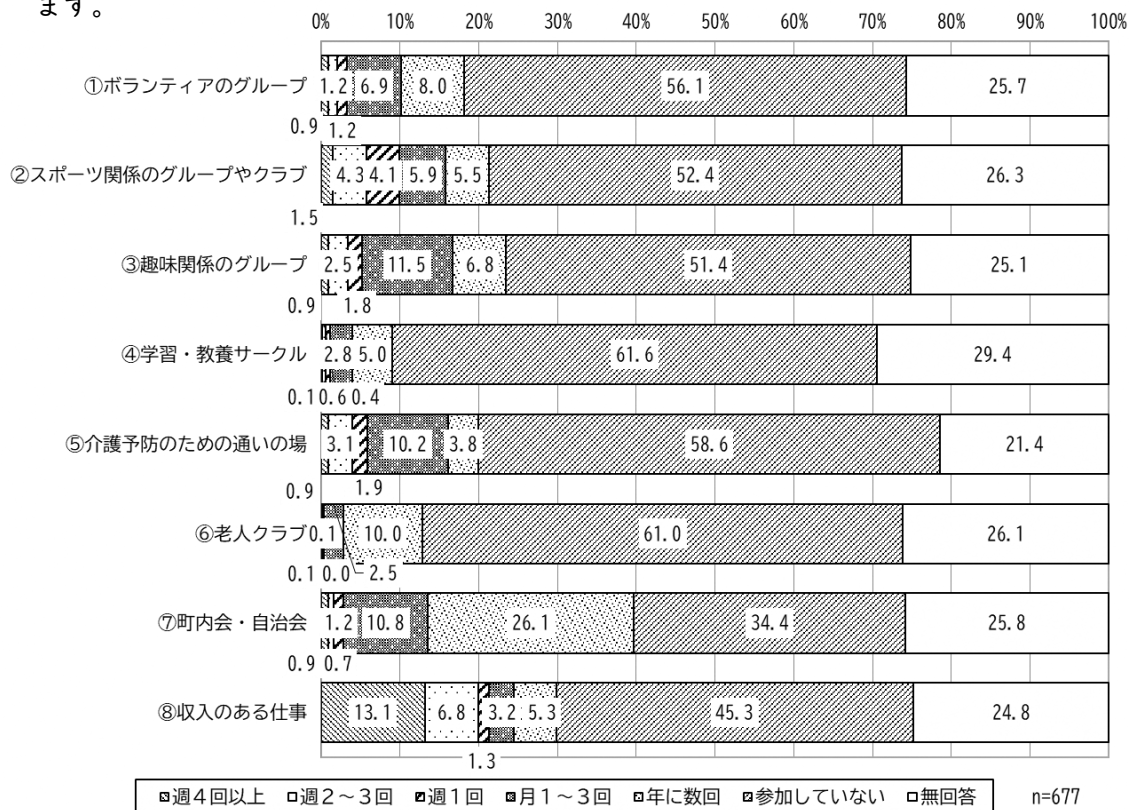


問5. 地域での活動について

Q1. 会やグループの参加頻度

【SA】

○「週4回以上」「週2～3回」「週1回」を合わせた『週1回以上』で比較すると、「⑧収入のある仕事」が21.2%で最も高くなっています。なお、他の活動についてはすべて10%以下となっています。

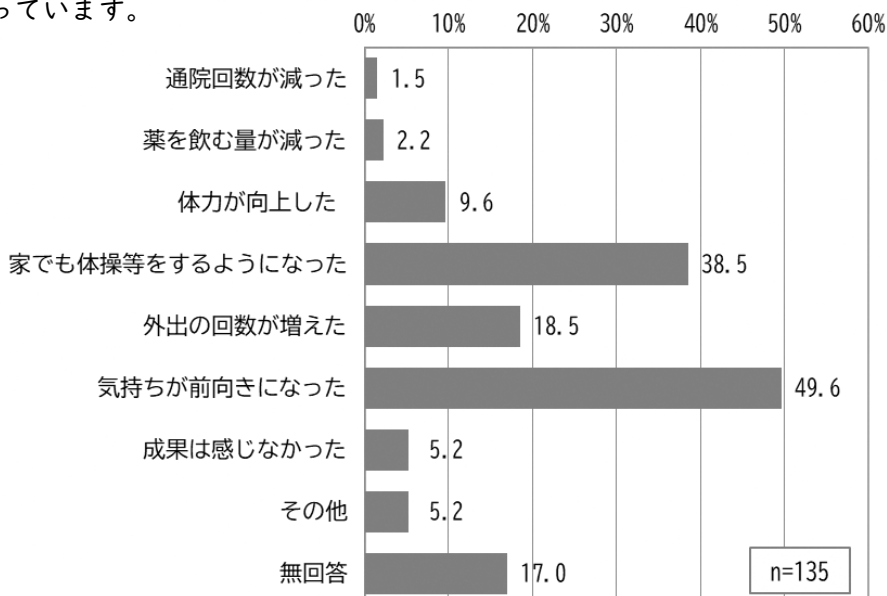


Q1-1. 介護予防のための「通いの場」の成果や効果

【SA】

(Q1の⑤介護予防のための通いの場で「参加していない」以外を選択した方限定)

○「気持ちが前向きになった」が49.6%で最も高く、次いで「家でも体操等をするようになった」が38.5%、「外出の回数が増えた」が18.5%の順となっています。一方、「成果は感じなかった」が5.2%となっています。

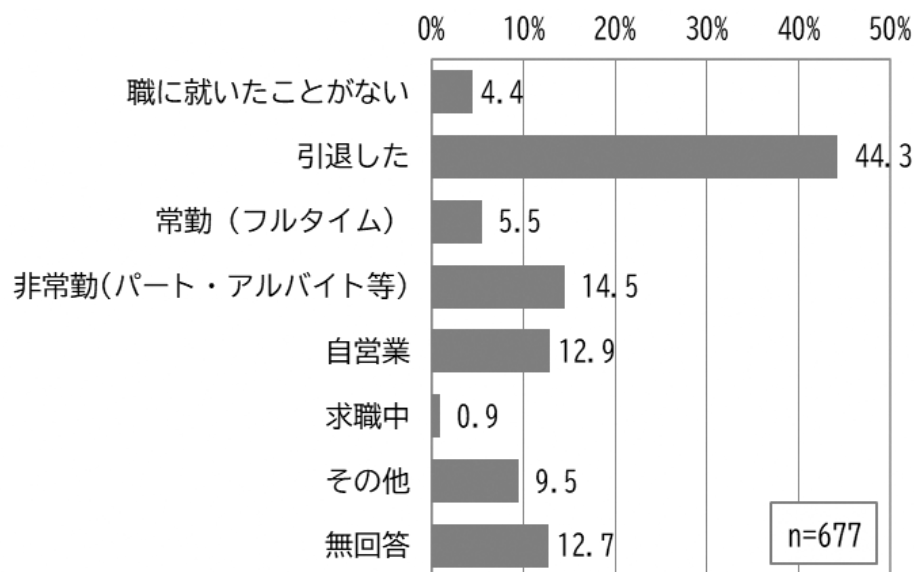


問6. 就労について

Q1. 現在の就労状態

【MA】

○「引退した」が44.3%で最も高く、次いで「非常勤(パート・アルバイト等)」が14.5%、「自営業」が12.9%の順となっています。

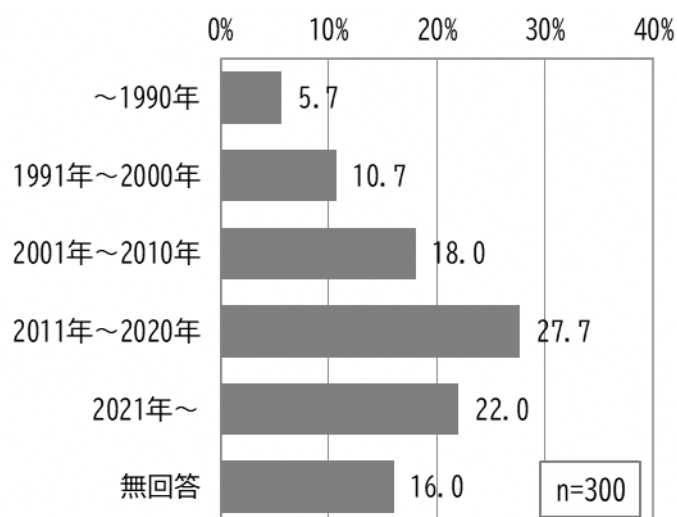


Q1-1. 引退した時期

【SA】

(Q1で「引退した」を選択した方限定)

○「2011年～2020年」が27.7%で最も高く、次いで「2021年～」が22.0%、「2001年～2010年」が18.0%となっています。

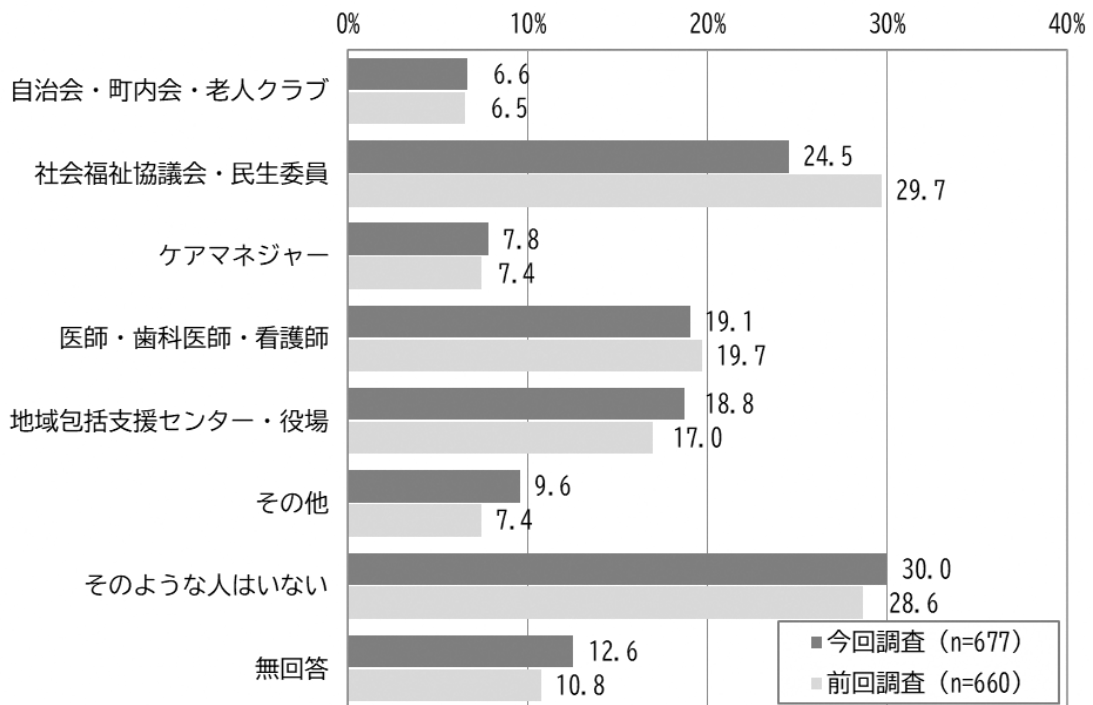


問7. たすけあいについて

Q5. 家族や友人・知人以外の相談相手

【MA】

○「そのような人はいない」が30.0%で最も高く、次いで、「社会福祉協議会・民生委員」が24.5%
「医師・歯科医師・看護師」が19.1%の順となっています。

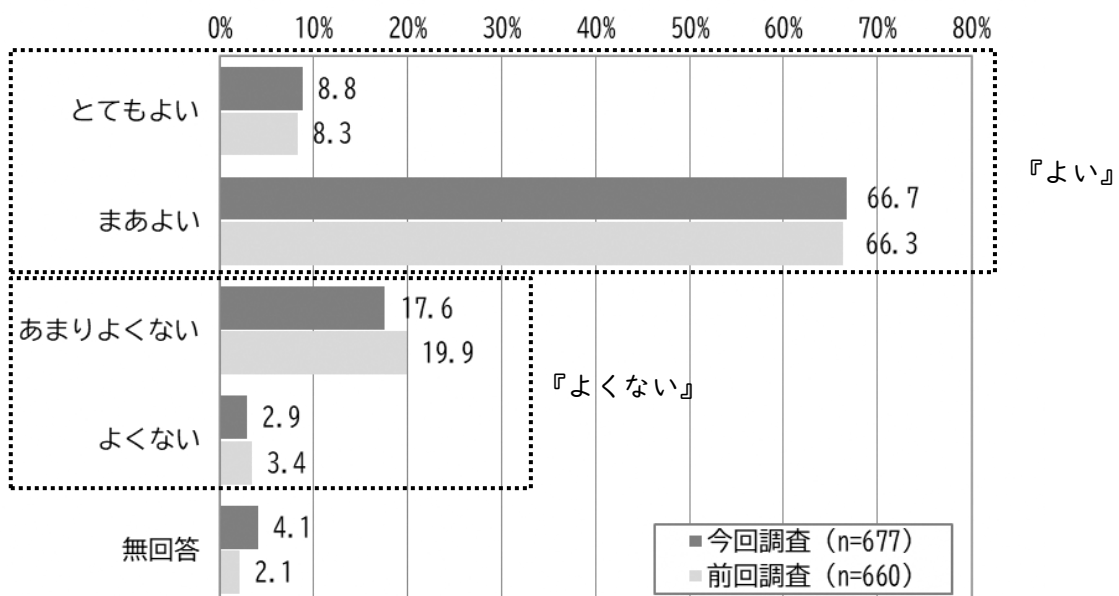


問8. 健康について

Q1. 主観的健康観

【SA】

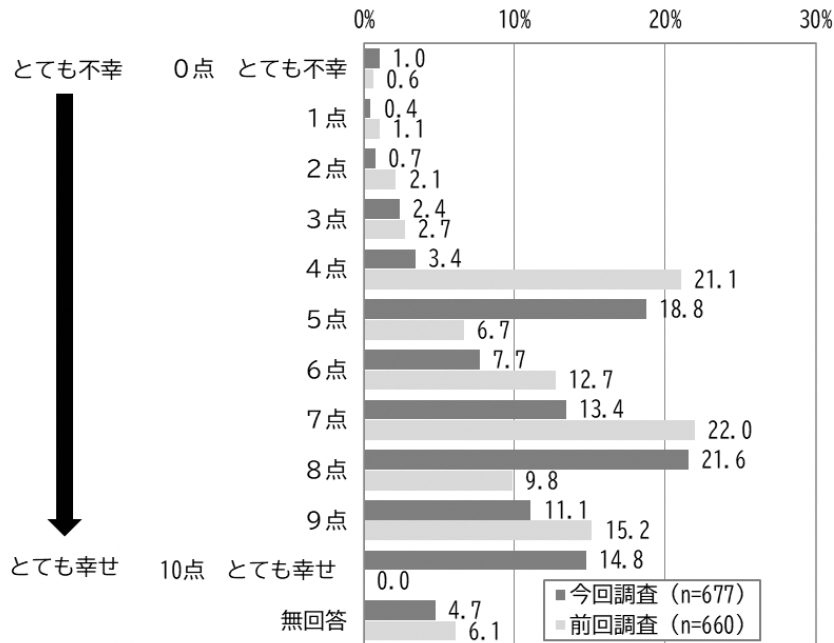
○「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』が75.5%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』が20.5%となっています。



Q2. 主観的幸福観

【SA】

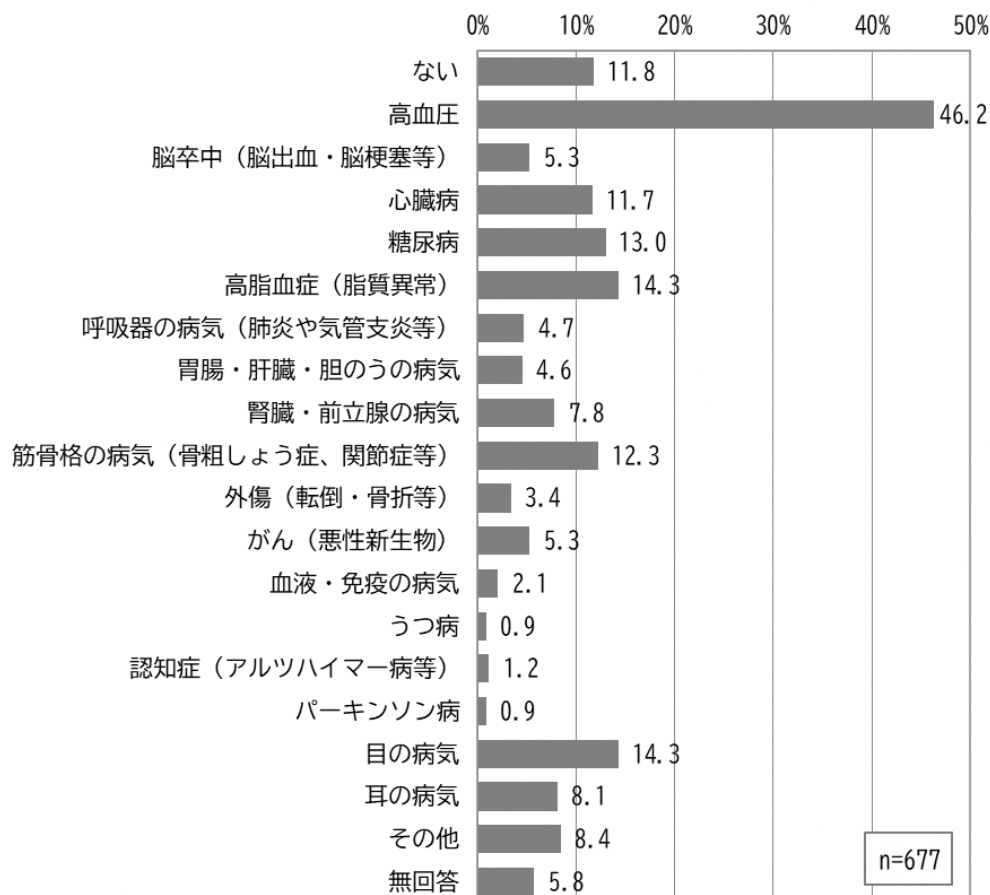
○「8点」が21.6%で最も高く、次いで「5点」が18.8%、「10点」が14.8%となっており、平均点は7.10となっています。



Q7. 治療中、または後遺症のある病気

【MA】

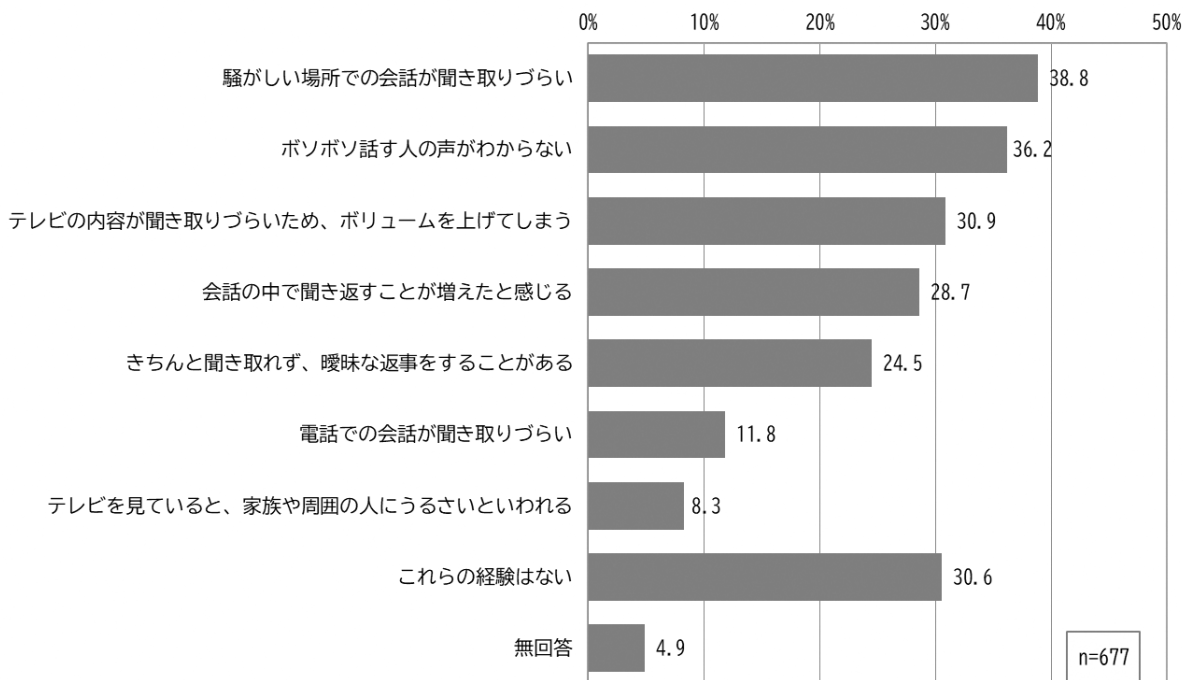
○「高血圧」が46.2%で最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」と「目の病気」が14.3%、「糖尿病」が13.0%、の順となっています。



Q9. 聞こえに関して日常生活で経験があること

【MA】

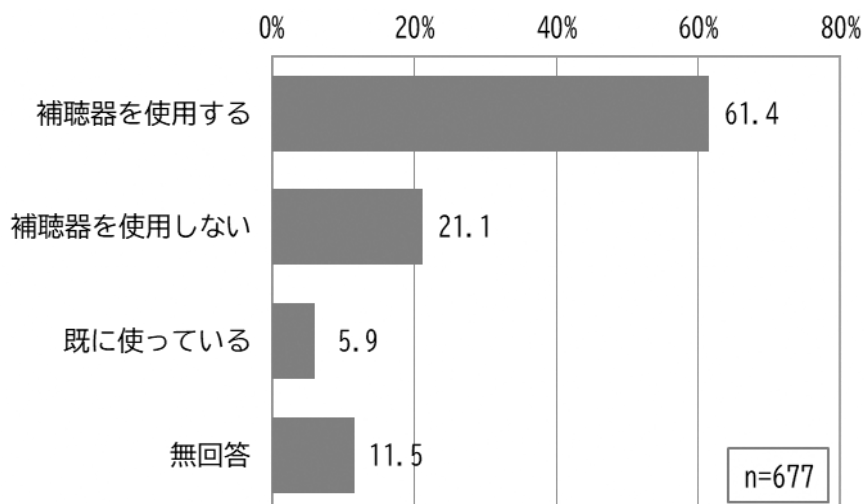
- 「騒がしい場所での会話が聞き取りづらい」が38.8%で最も高く、次いで「ボソボソ話す人の声がわからない」が36.2%、「テレビの内容が聞き取りづらいため、ボリュームを上げてしまう」が30.9%の順となっています。



Q10. 将来、補聴器を使用したいか

【SA】

- 「補聴器を使用する」が61.4%、「補聴器を使用しない」が21.1%となっています。

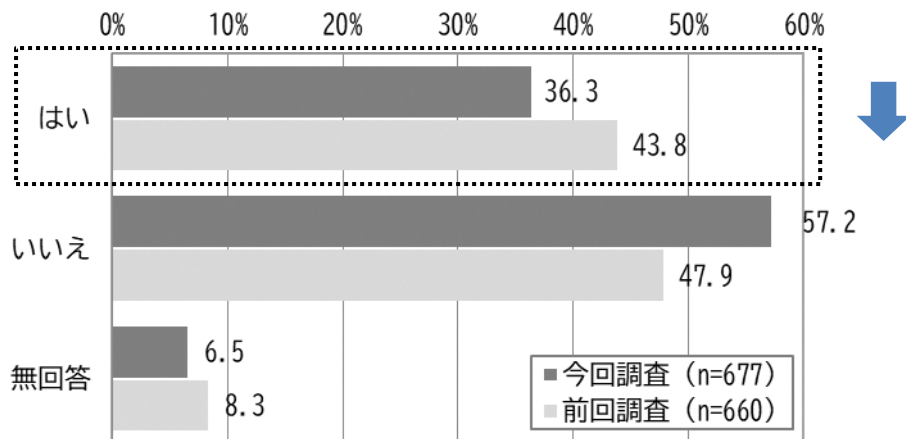


問9. 認知症について

Q5. 認知症に関する相談窓口を知っているか

【SA】

○「はい」は36.3%となっており、前回調査に比べ7.5ポイント減少しています。

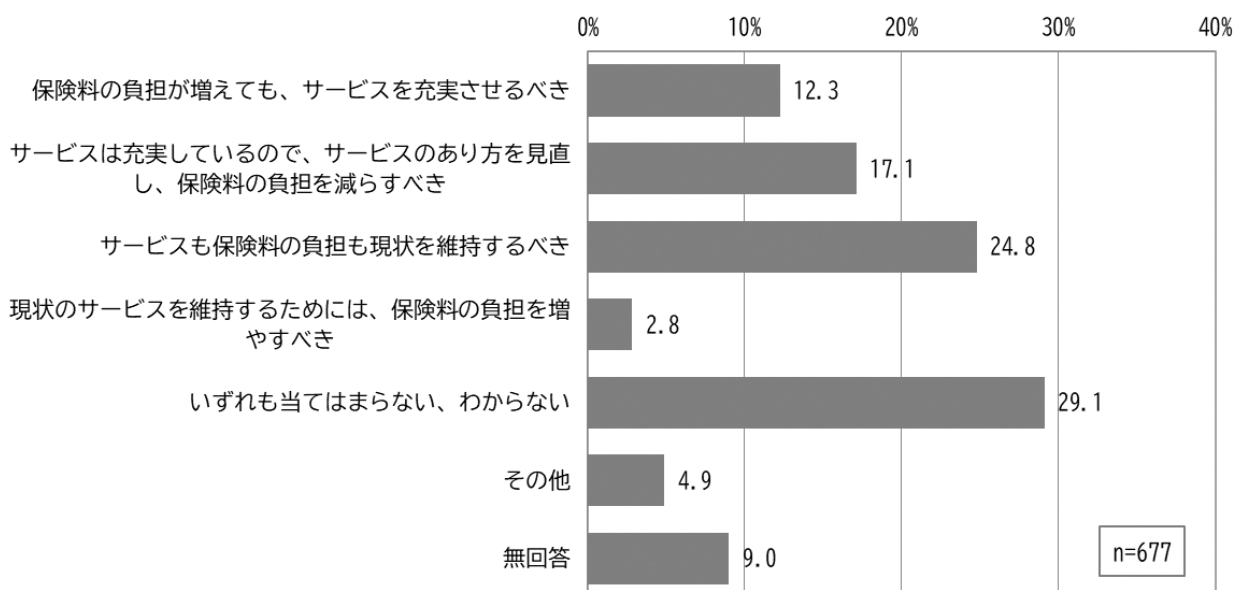


問10. 京丹波町の高齢者福祉施策について

Q1. 望ましい介護保険サービスと介護保険料の関係のあり方

【SA】

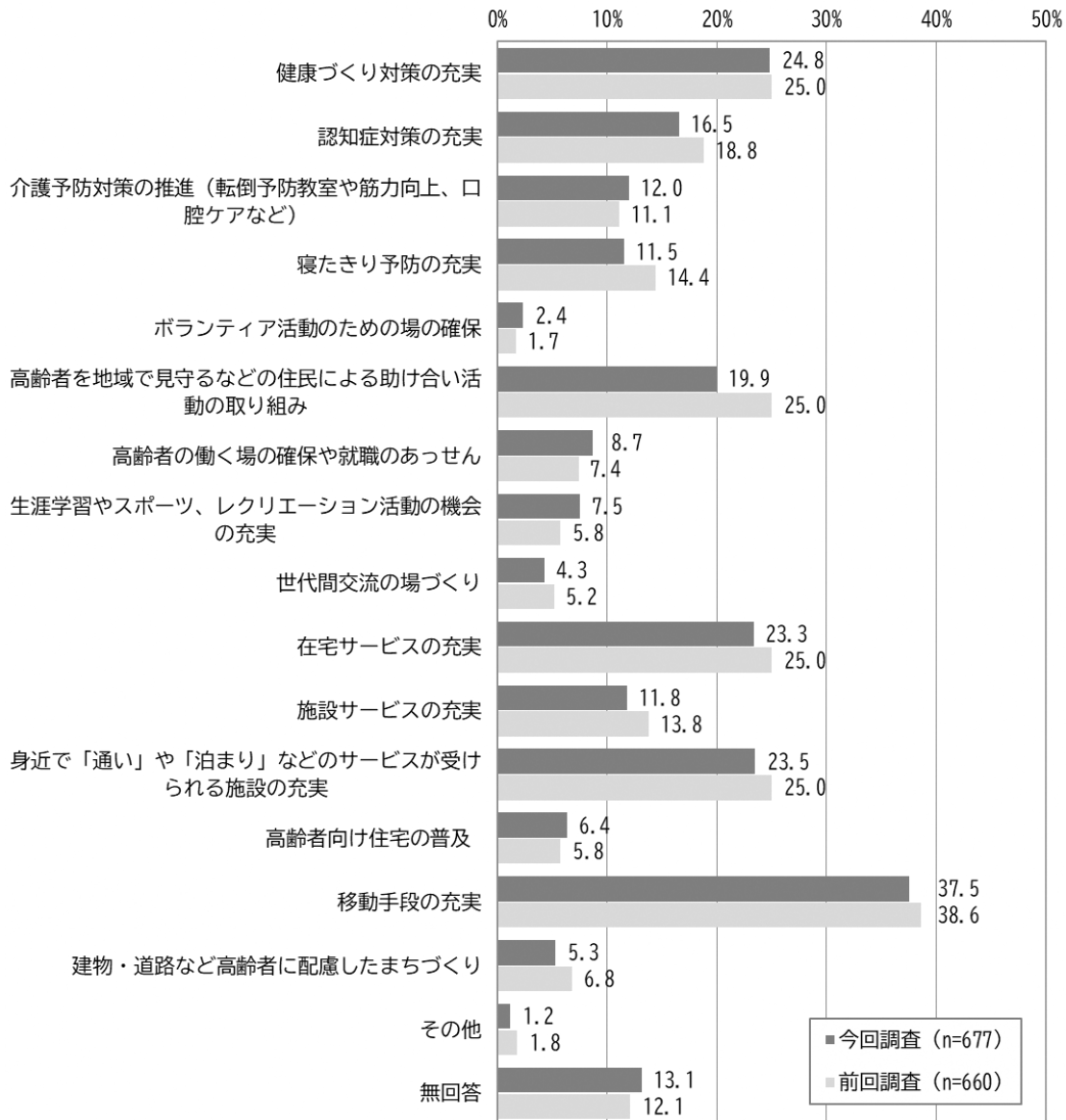
○「いずれも当てはまらない、わからない」が29.1%で最も高く、次いで「サービスも保険料の負担も現状を維持するべき」が24.8%、「サービスは充実しているのに、サービスのあり方を見直し、保険料の負担を減らすべき」が17.21の順となっています。



Q2. 高齢者福祉で拡充が重要な施策

【MA】

○ 「移動手段の充実」が 37.5%で最も高く、次いで「健康づくり対策の充実」が 24.8%、「身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる施設の充実」が 23.5%の順となっています。



I - II 生活機能評価

1. 生活機能評価手法の概要

(1)生活機能

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の必須設問（基本チェックリスト 項目）については、運動器機能低下、閉じこもりの状況、転倒のおそれ、低栄養状態の傾向等の高齢者の要介護リスク指標を把握・集計することにより、課題の明確化や介護保険事業計画の客観的基礎データの整備、介護予防事業の対象者の把握を行います。該当設問及び評価基準は以下のとおりです。

①運動器機能低下：次の設問で3項目以上、該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問2. Q1	階段を昇れるか	「3.できない」
問2. Q2	椅子から立ち上がれるか	「3.できない」
問2. Q3	15分間歩行できるか	「3.できない」
問2. Q4	転倒の経験あるか	「1.何度もある」「2.1度ある」
問2. Q5	転倒の不安大きいか	「1.とても不安である」「2.やや不安である」

②転倒リスク：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問2. Q4	転倒の経験あるか	「1.何度もある」「2.1度ある」

③閉じこもり傾向：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問2. Q6	週1回以上外出しているか	「1.ほとんど外出しない」「2.週1回」

④低栄養：次の設問で2問ともに該当する場合

問番号	項目	選択肢
問3. Q1	BMI（身長と体重）	（ ）cm （ ）kg BMI {体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)}}が18.5 以下の場合
問3. Q7	2～3kg以上の体重減あるか	「1.はい」

⑤口腔機能低下：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問3. Q2	固いものが食べにくくなったか	「1.はい」
問3. Q3	お茶や汁物でむせるか	「1.はい」
問3. Q4	口の渇きが気になるか	「1.はい」

I - II 生活機能評価

⑥認知機能低下：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問4. Q1	物忘れが多いと感じるか	「1.はい」

⑦うつ傾向：次の設問で該当する選択肢が回答された場合

問番号	項目	選択肢
問8. Q3	ゆううつな気持ちになるか	「1.はい」
問8. Q4	心から楽しめない感じがあるか	「1.はい」

(2)老研式活動能力指標

老研式活動能力指標とは、手段的自立度（IADL¹）、知的能動性、社会的役割の3つの側面で構成された高次の生活機能の評価指標です。該当設問及び評価基準は以下のとおりです。

①手段的自立度（IADL）：以下の5設問の合計点数で評価

5点：高い 4点：やや低い 0～3点：低い

問番号	項目	配点	選択肢
問4. Q4	1人で外出しているか	1	「1.できるししている」または「2.できるけどしていない」
		0	「3.できない」
問4. Q5	自分で買物しているか	1	「1.できるししている」または「2.できるけどしていない」
		0	「3.できない」
問4. Q6	自分で食事用意しているか	1	「1.できるししている」または「2.できるけどしていない」
		0	「3.できない」
問4. Q7	自分で請求書支払いしているか	1	「1.できるししている」または「2.できるけどしていない」
		0	「3.できない」
問4. Q8	自分で預貯金出し入れしているか	1	「1.できるししている」または「2.できるけどしていない」
		0	「3.できない」

¹ IADL：買物・電話・外出等、高い自立した日常生活をおくる能力。手段的日常生活動作能力。

②知的能動性：以下の4設問の合計点数で評価

4点：高い 0～3点：低い

問番号	項目	配点	選択肢
問4. Q9	年金などの書類 書けるか	1	「1.はい」
		0	「2.いいえ」
問4. Q10	新聞を読んでいるか	1	「1.はい」
		0	「2.いいえ」
問4. Q11	本や雑誌を読んで いるか	1	「1.はい」
		0	「2.いいえ」
問4. Q12	健康についての記事など に関心あるか	1	「1.はい」
		0	「2.いいえ」

③社会的役割：以下の4項目の合計点数で評価

4点：高い 0～3点：低い

問番号	項目	配点	選択肢
問4. Q13	友人の家を訪ねているか	1	「1.はい」
		0	「2.いいえ」
問4. Q14	家族や友人の相談に のっているか	1	「1.はい」
		0	「2.いいえ」
問4. Q15	病人の見舞いできるか	1	「1.はい」
		0	「2.いいえ」
問4. Q16	若い人に自分から 話しかけるか	1	「1.はい」
		0	「2.いいえ」

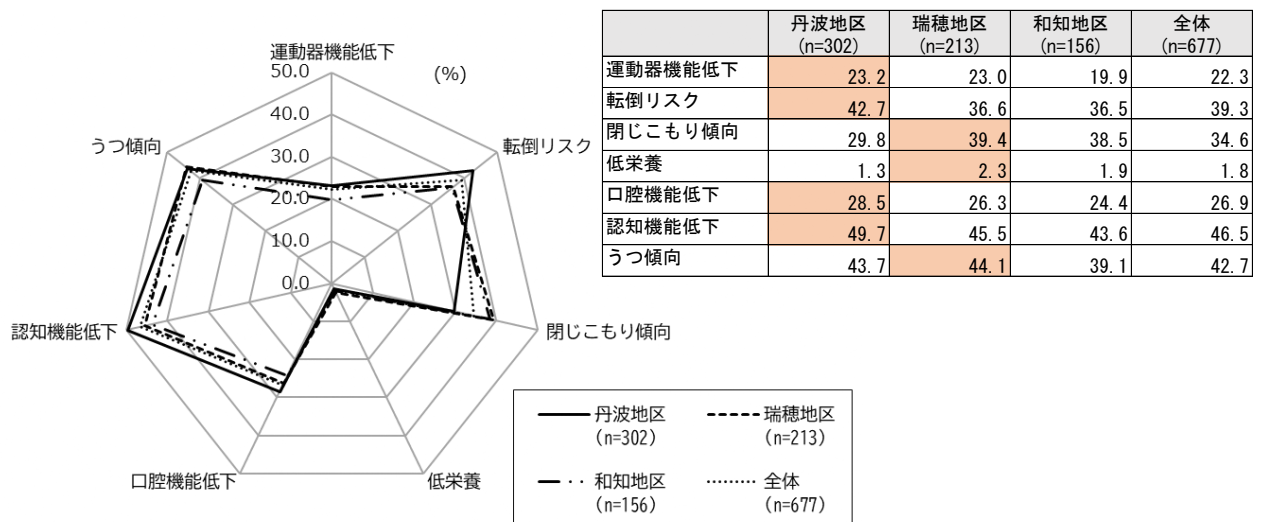
2. 評価結果

1. 生活機能

○生活機能の評価項目ごとの該当者（リスク者）の割合は、全体では「認知機能低下」が最も高く、次いで「うつ傾向」、「転倒リスク」の順になっています。

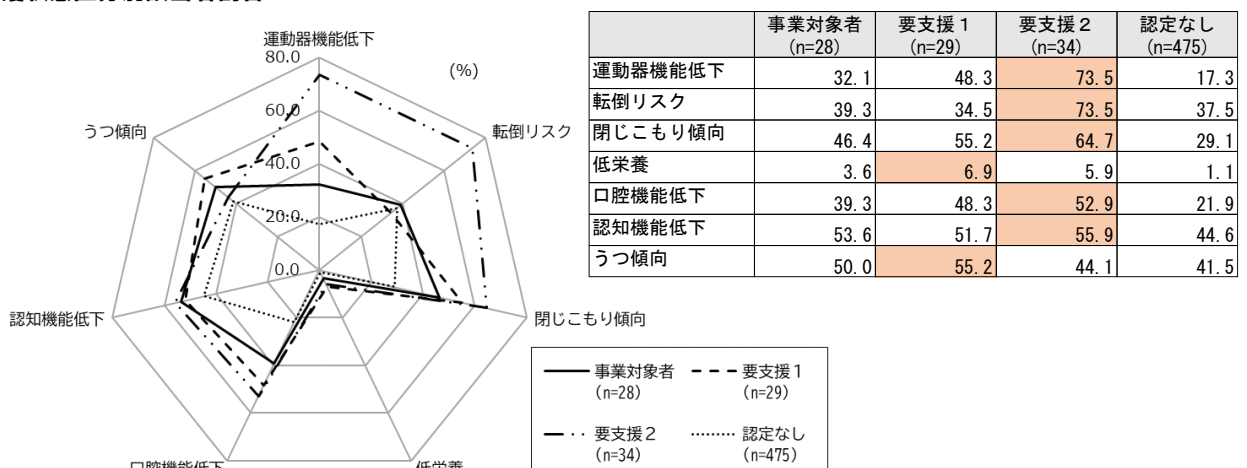
○日常生活圏域別にみると、「閉じこもり傾向」の該当者（リスク者）は、“瑞穂地区”が他と比べやや高くなっています。

地区別該当者割合



○要介護状態区別にみると、「低栄養」と「うつ傾向」の該当者（リスク者）は、“要支援1”が、他と比べ割合が高くなっています。また「認知機能低下」は“認定なし”においても該当者は44.6%と高くなっています。

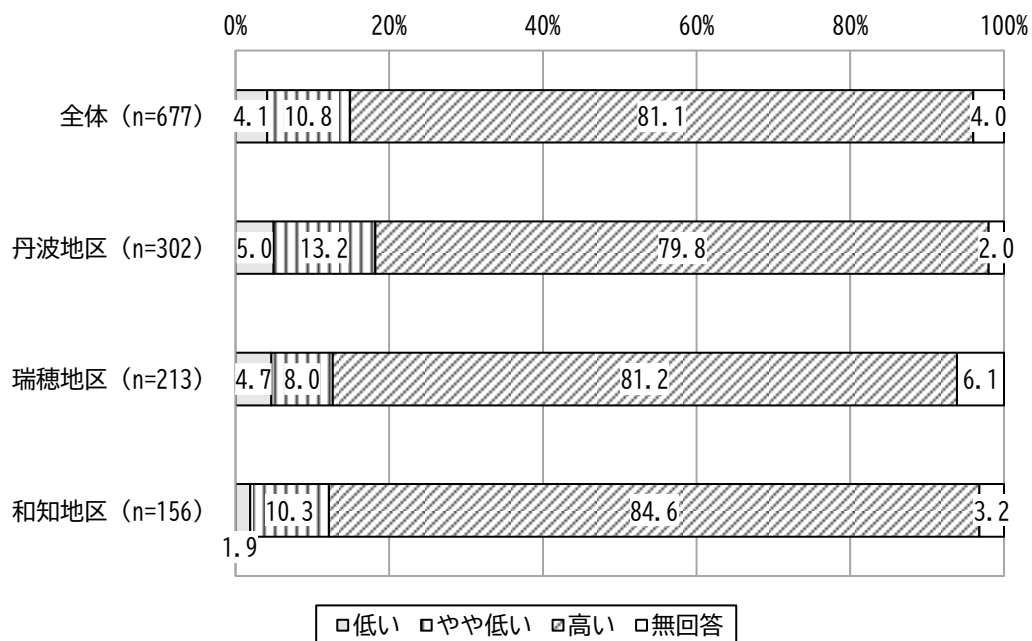
要介護状態区別該当者割合



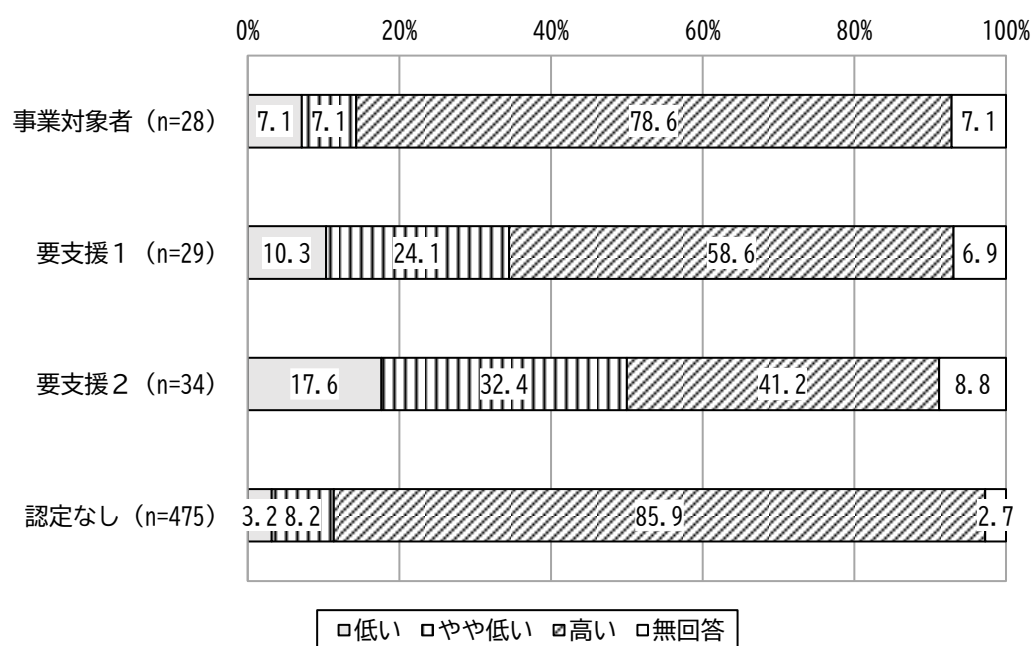
2. 老研式活動能力指標

①手段的自立度（IADL）

○日常生活圏域別にみると、「低い」と「やや低い」とを合わせた『低い』は、“丹波地区”でやや高くなっています。



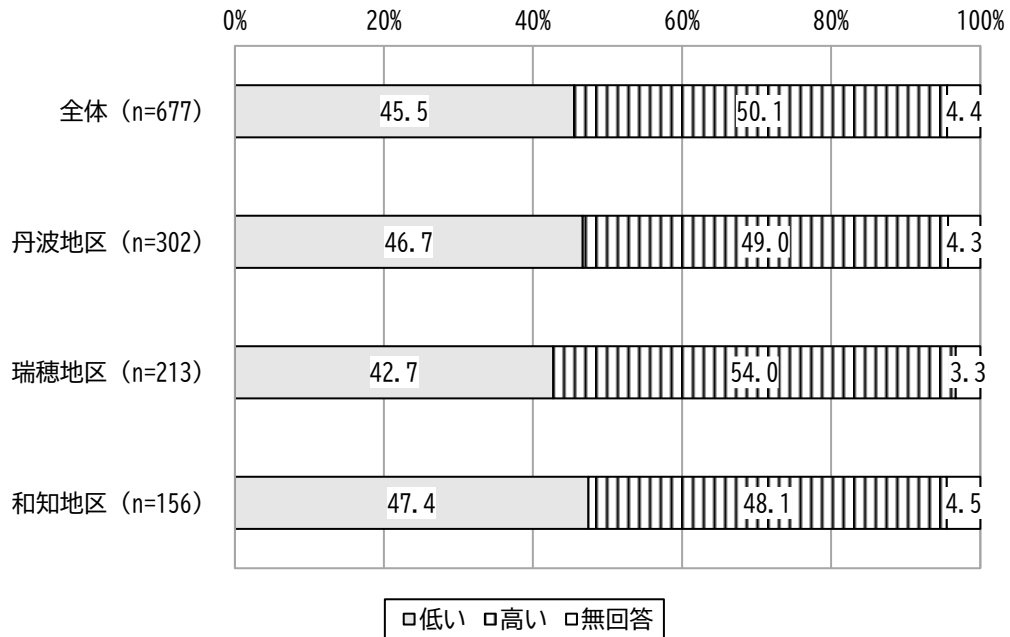
○要介護状態区分別にみると、「低い」と「やや低い」とを合わせた『低い』は、“要支援2”では50.0%と最も高くなっています。



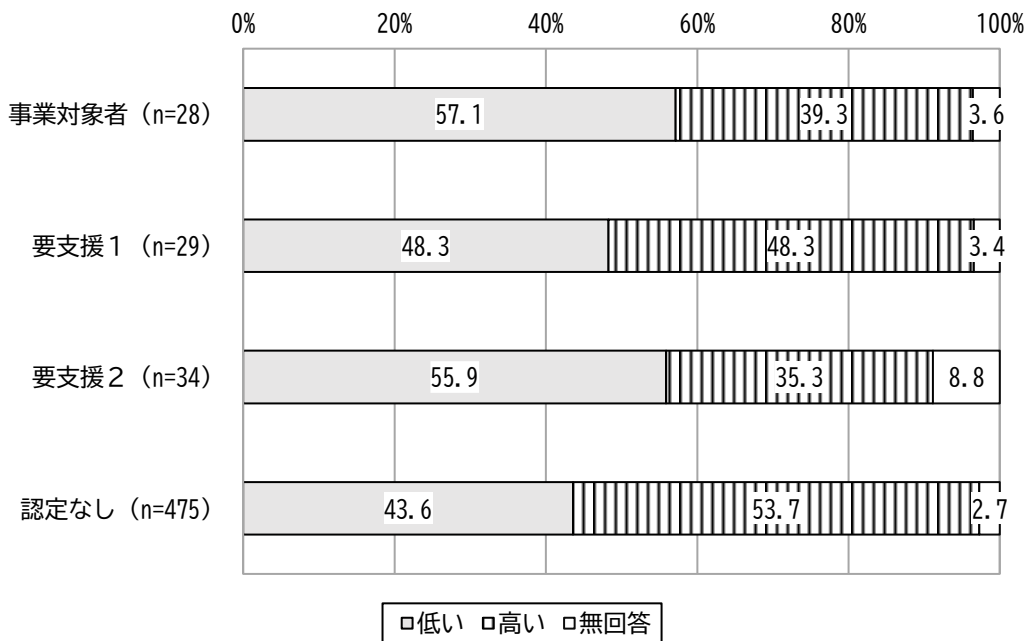
I - II 生活機能評価

②知的能動性

○日常生活圏域別にみると、「高い」は、「瑞穂地区」が54.0%で他の圏域に比べ高く、「和知地区」が48.1%で最も低くなっています。

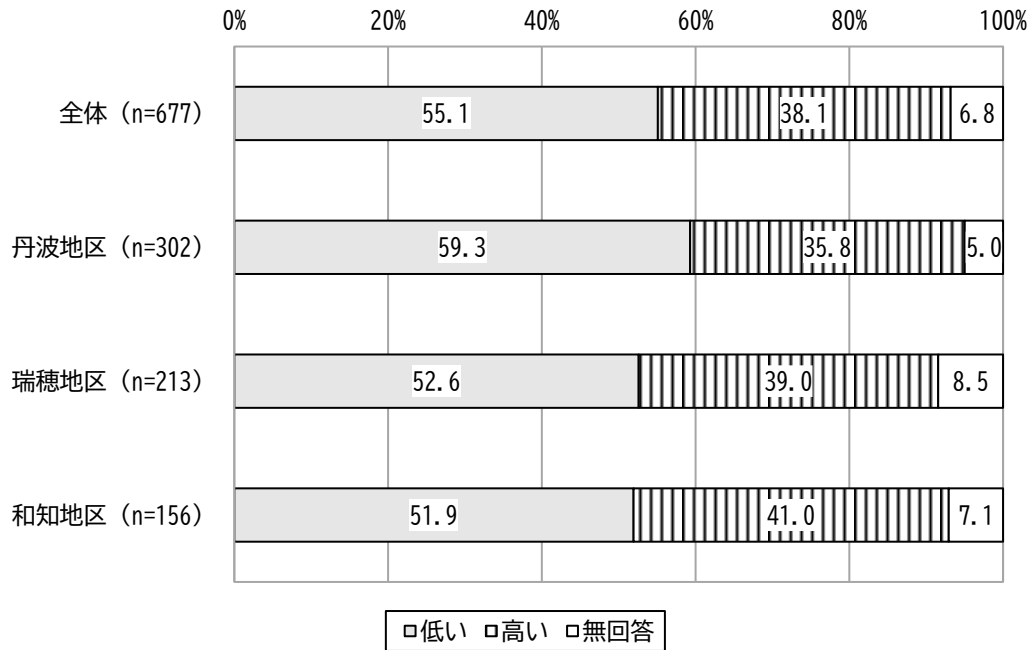


○要介護状態区分別にみると、「低い」は、「事業対象者」が57.1%で最も高く、次いで“要支援2”、“要支援1”の順となっています。

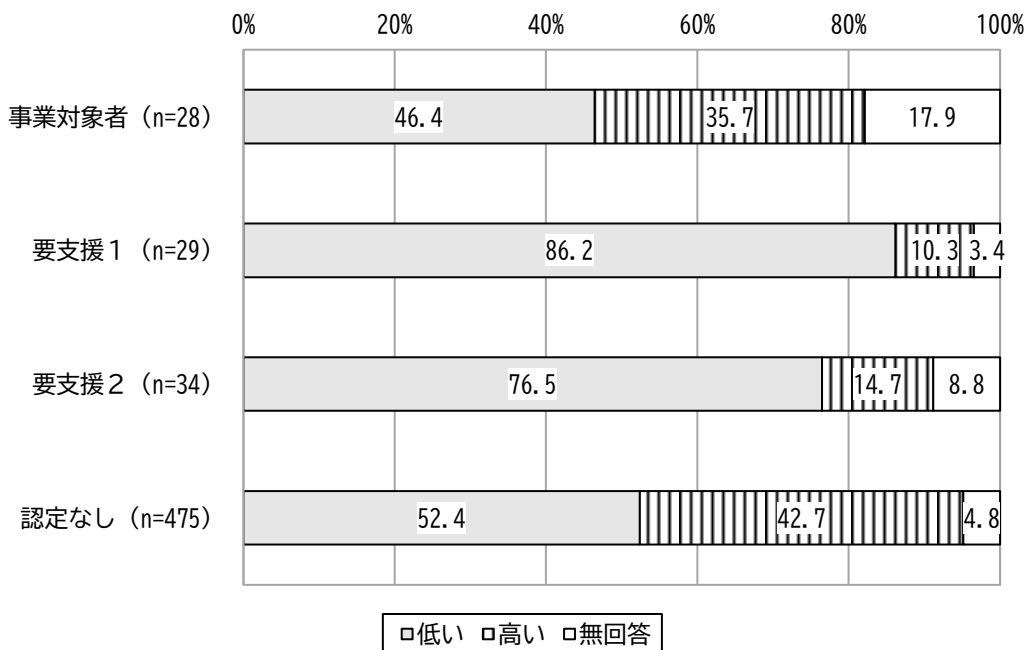


③社会的役割

○日常生活圏域別にみると、「低い」は、“丹波地区”が他の圏域に比べやや高くなっています。



○要介護状態区別にみると、「低い」は、“要支援1”が86.2%で最も高く、次いで“要支援2”、“認定なし”の順となっています。



II 在宅介護実態調査

II 在宅介護実態調査

※アンケートへの回答に加え、要介護認定データ（令和7年12月）を利用した分析・集計を行います。

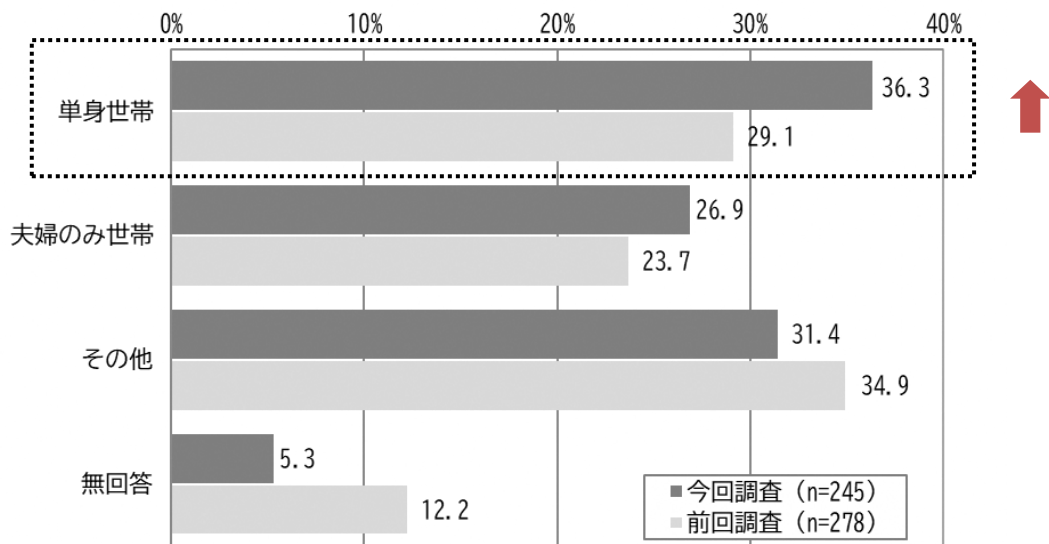
A票. 調査対象者について

Q2. 世帯類型

【SA】

○「単身世帯」が36.3%で最も高く、次いで「その他」が31.4%、「夫婦のみ世帯」が26.9%の順となっています。

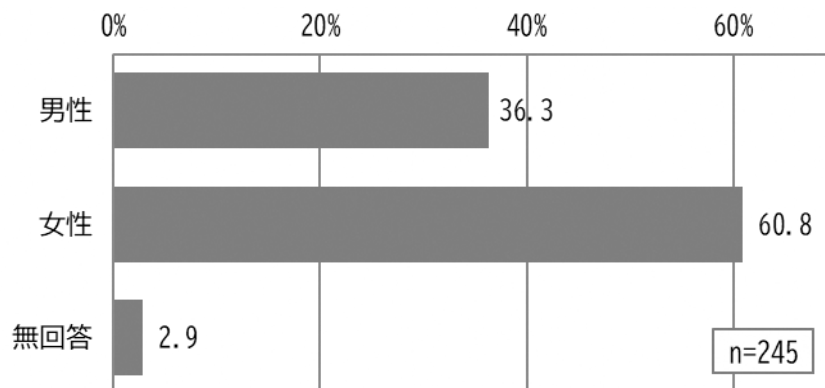
○前回調査に比べ「その他」が3.5ポイント減少、一方「単身世帯」が7.2ポイント増加しています。



Q3. 性別

【SA】

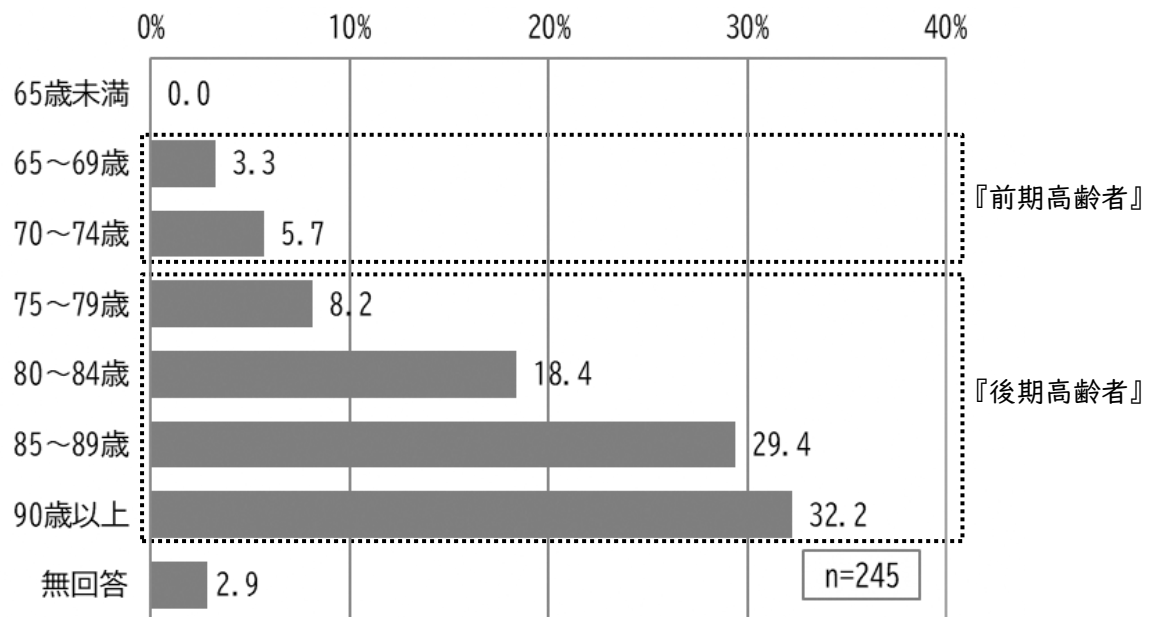
○「男性」より「女性」の割合が高くなっています。



Q4. 年齢

【SA】

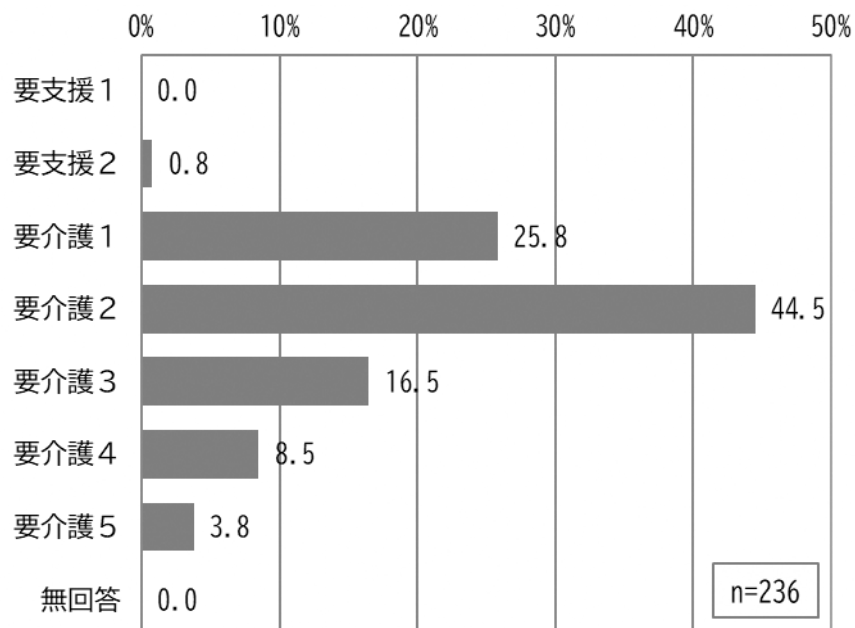
○「90歳以上」が32.2%で最も高く、後期高齢者（75歳以上）が88.2%となっています。



Q5. 要介護度

【SA】

○「要介護2」が44.5%で最も高くなっています。（要介護認定データによる）

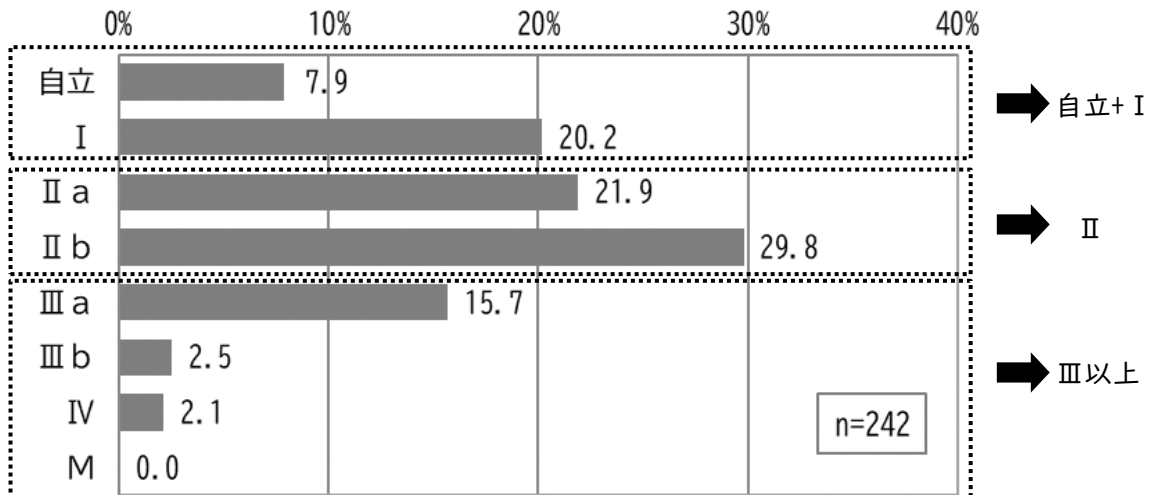


II 在宅介護実態調査

●認知症自立度

【SA】

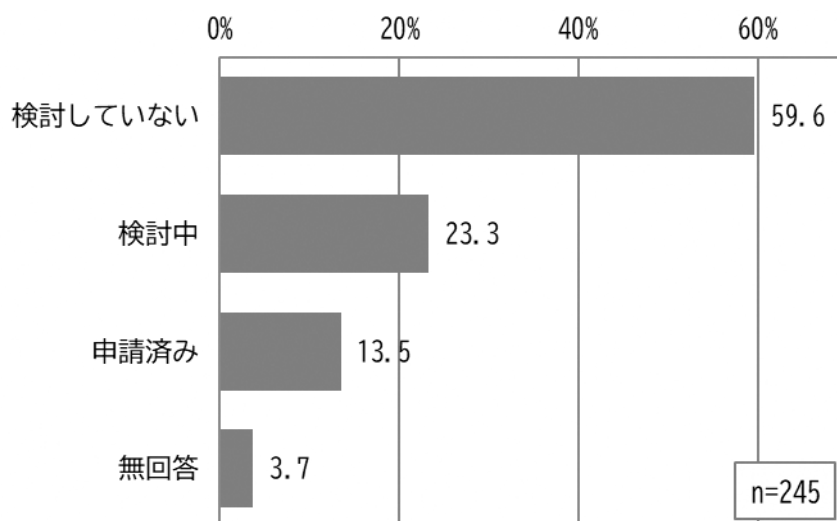
- 「II b」が29.8%で最も高く、次いで「II a」が21.9%、「I」が20.2%の順となっています。
(要介護認定データによる)



Q6. 施設等への入所・入居の検討状況

【SA】

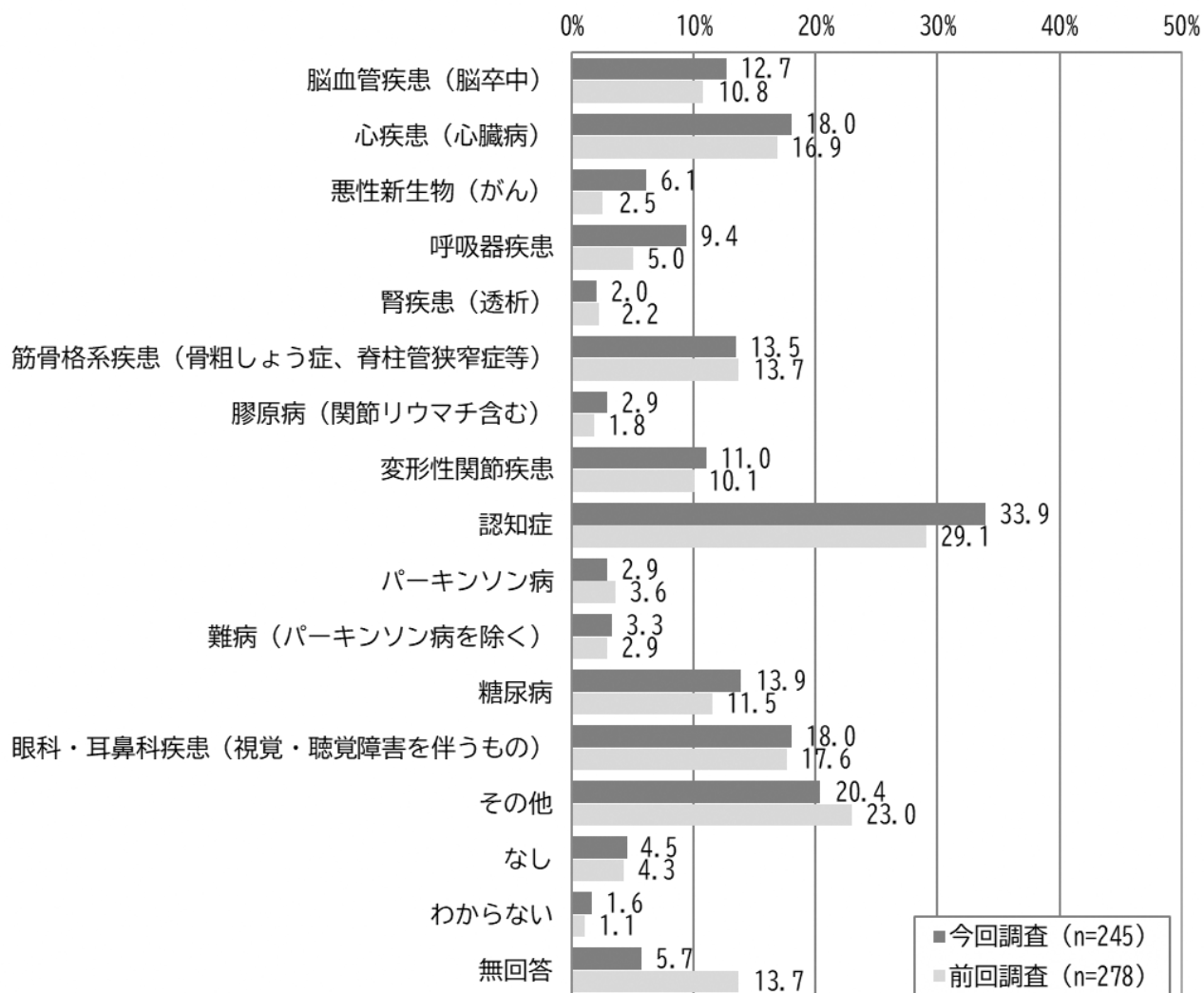
- 「入所・入居は検討していない」が59.6%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が23.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が13.5%の順となっています。



Q7. 現在抱えている傷病

【MA】

○「認知症」が33.9%で最も高く、次いで「その他」が20.4%、「心疾患（心臓病）」「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」がともに18.0%の順となっています。

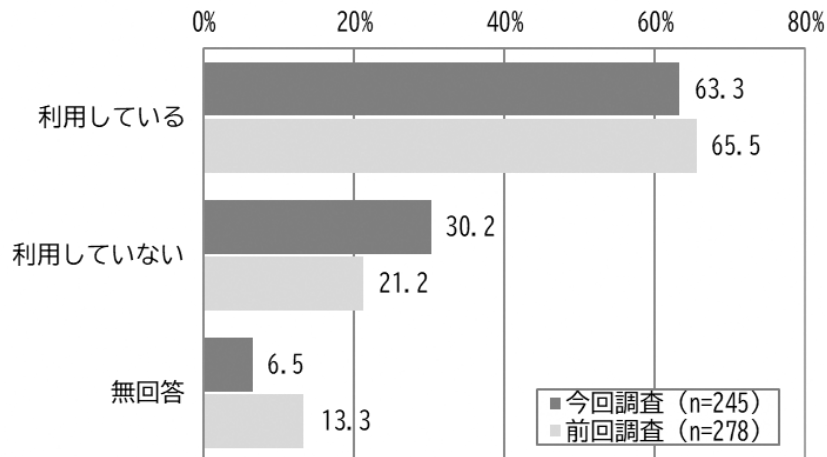


II 在宅介護実態調査

Q8. 1か月間の介護保険サービスの利用の有無

【SA】

○「利用している」が63.3%、「利用していない」が30.2%となっています。

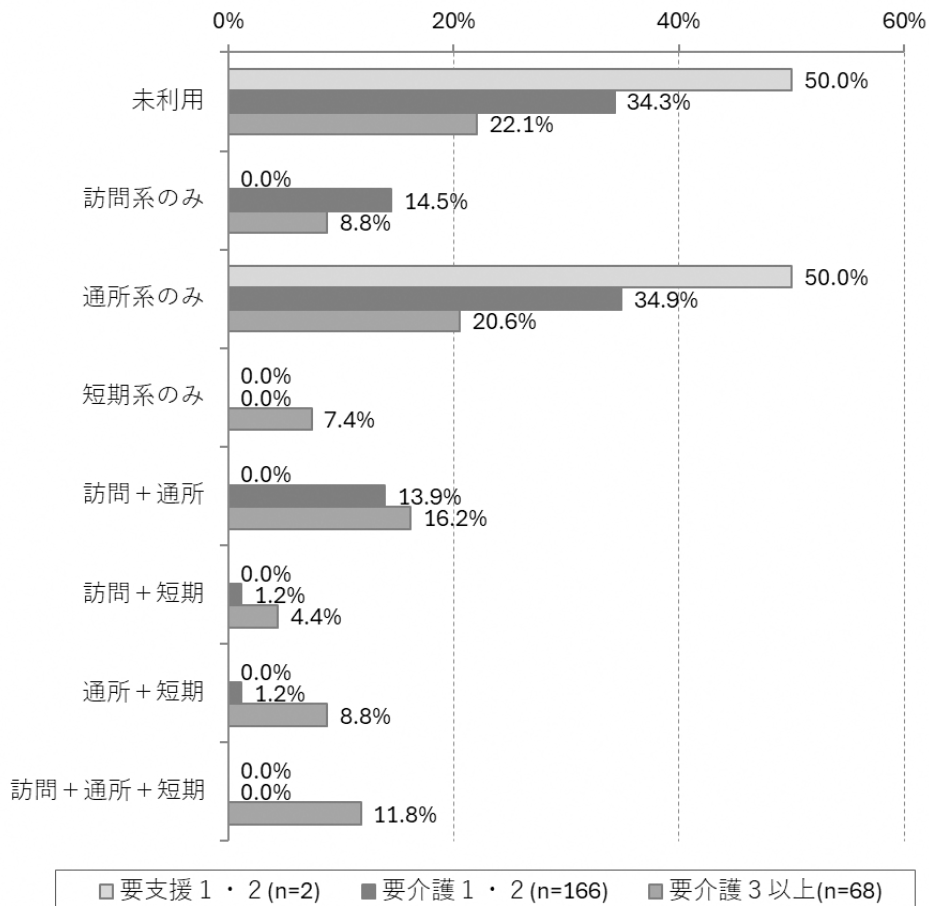


Q9. 介護保険サービス利用の状況

【SA】

○要介護度別にみると、“要介護1・2”では「未利用」と「通所系のみ」が50.0%と最も高くなっています。“要介護3以上”では「通所系のみ」と「未利用」がそれぞれ34.9%、34.3%と高くなっています。（要介護認定データによる）

【要介護度別・介護保険サービス利用の組み合わせ】



※要介護認定データ（令和7年12月）によるため、Q8との差異があります

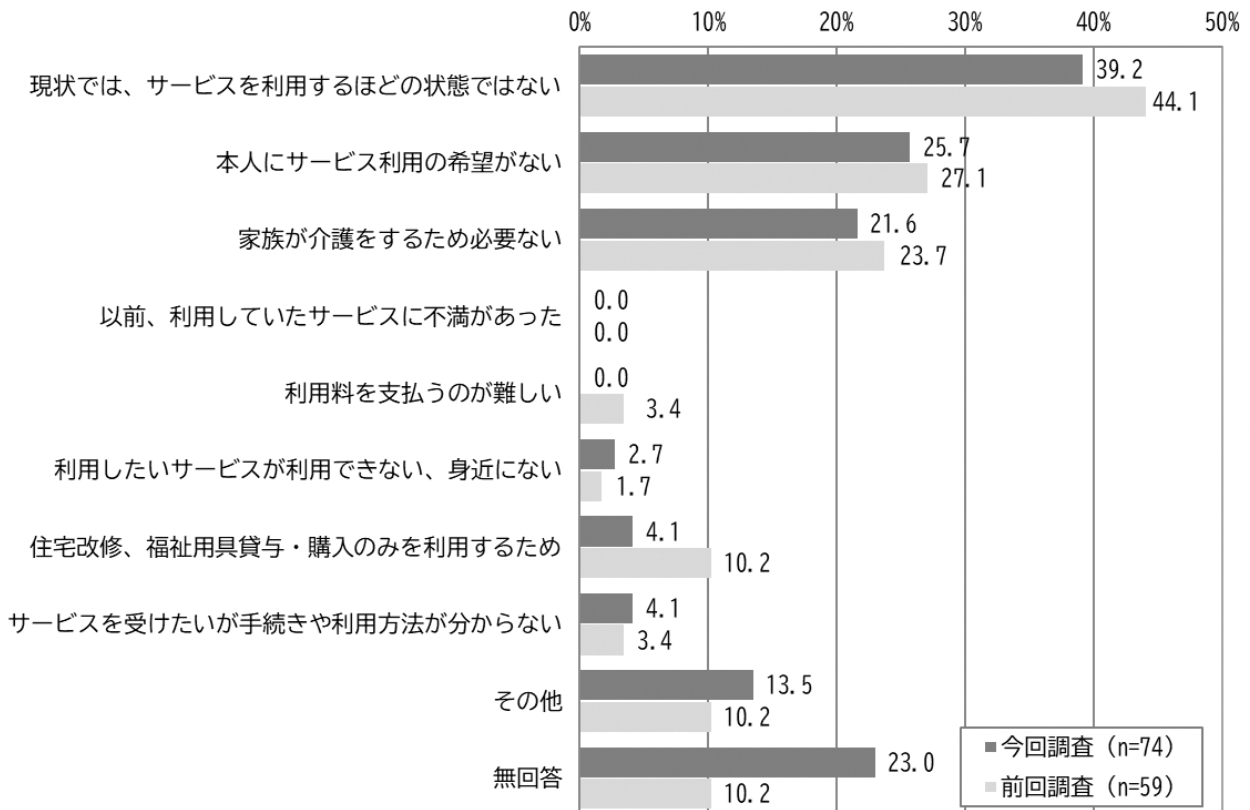
Q10. 介護保険サービスを利用していない理由

【MA】

(Q8で「利用していない」を選択した方限定)

○「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が39.2%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が25.7%となっています。

○前回調査に比べ「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が4.9ポイント減少しています。

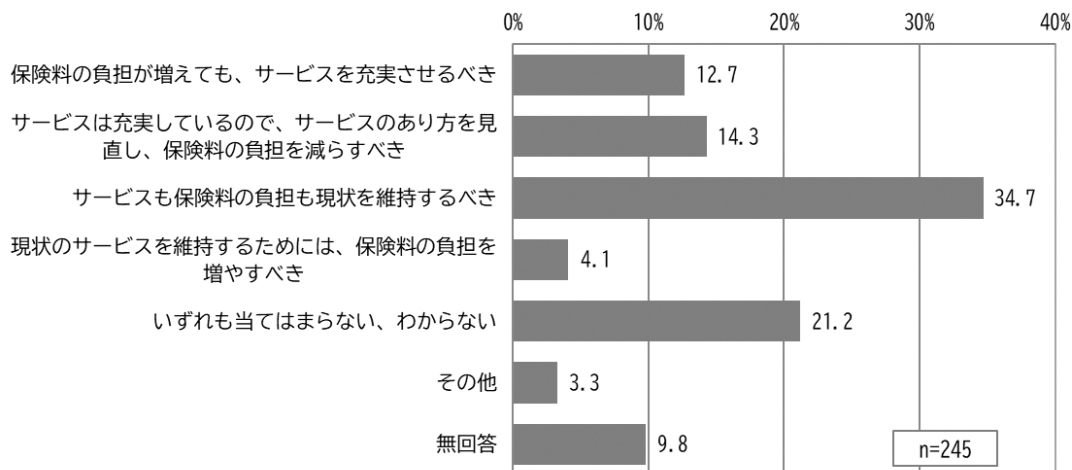


II 在宅介護実態調査

Q11. 町の介護保険サービスと介護保険料の関係について望ましいあり方

【SA】

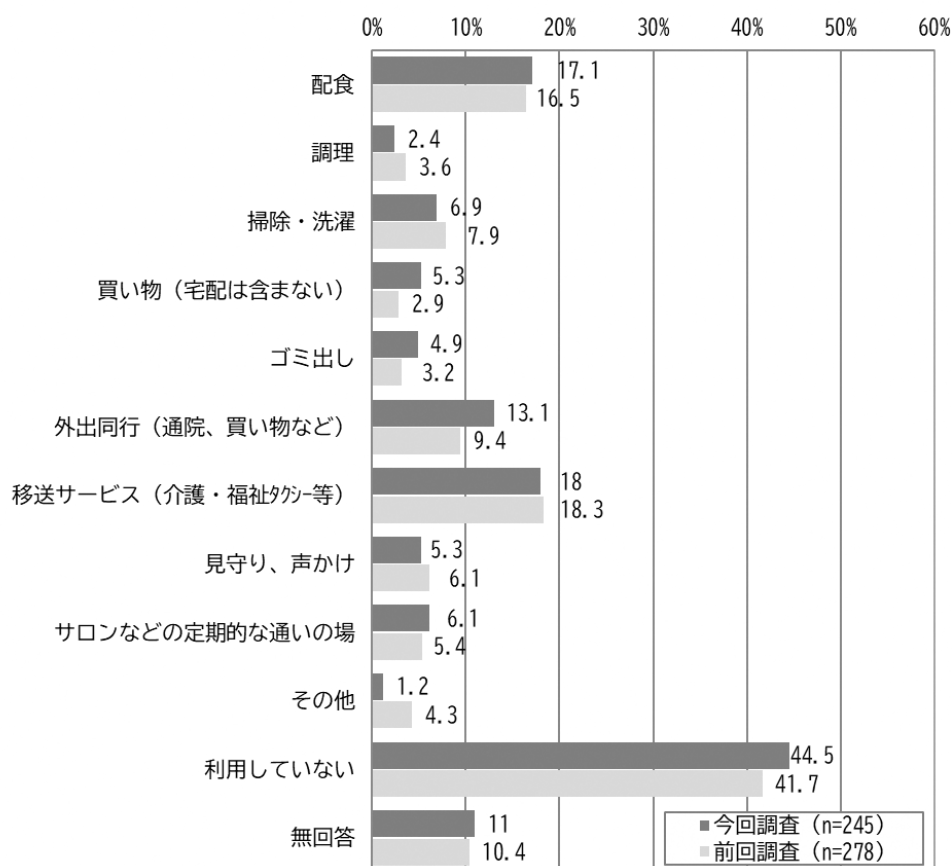
○「サービスも保険料の負担も現状を維持するべき」が34.7%で最も高く、次いで「サービスは充実しているので、サービスのあり方を見直し、保険料の負担を減らすべき」が14.3%、「保険料の負担が増えても、サービスを充実させるべき」が12.7%の順となっています。



Q12. 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

【MA】

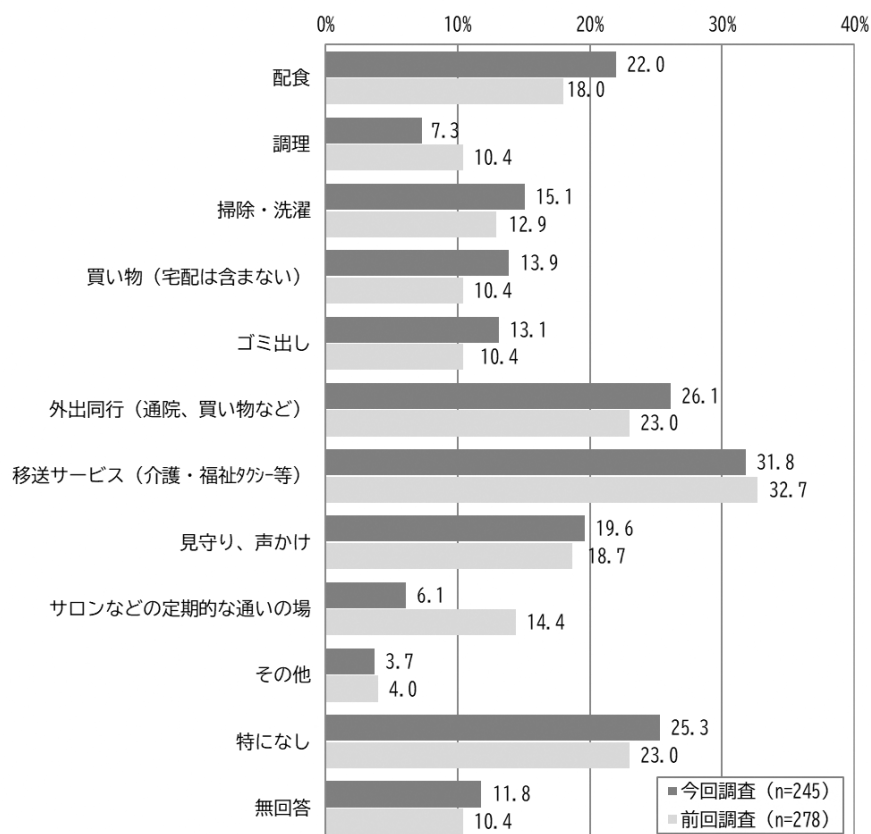
○「利用していない」が44.5%で最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が18.0%、「配食」が17.1%の順となっています。



Q13. 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

【MA】

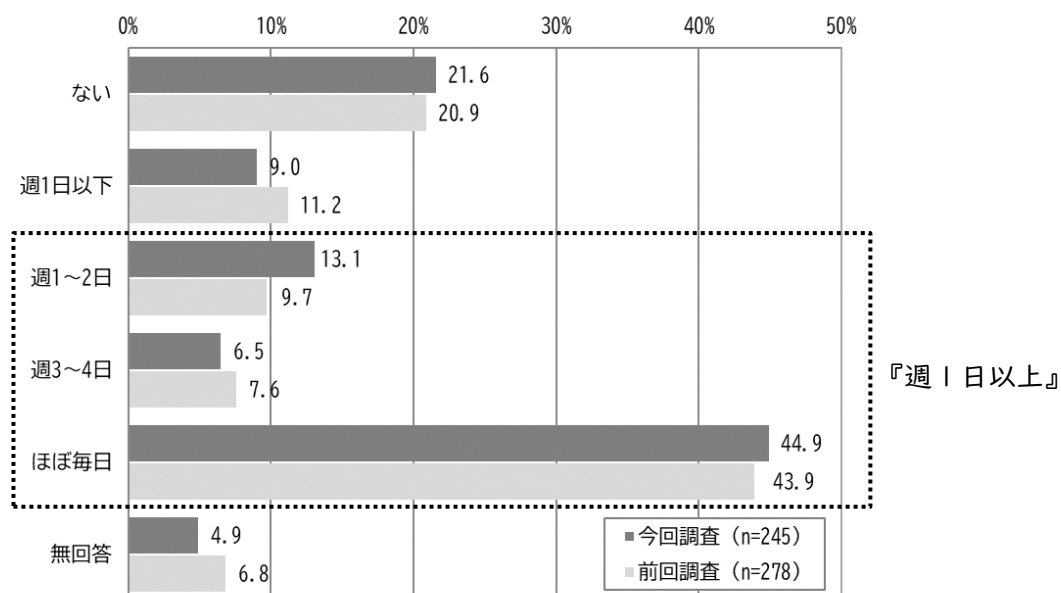
- 「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.8%で最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が26.1%と「配食」が22.0%の順となっています。
- 前回調査に比べ、多くの支援・サービスで高くなっています。



Q15. 家族や親族からの介護の頻度

【SA】

- 「ほぼ毎日ある」が44.9%で最も高く、次いで「ない」が21.6%、「週1～2日」が13.1%の順となっており、『週1日以上』が64.5%となっています。



II 在宅介護実態調査

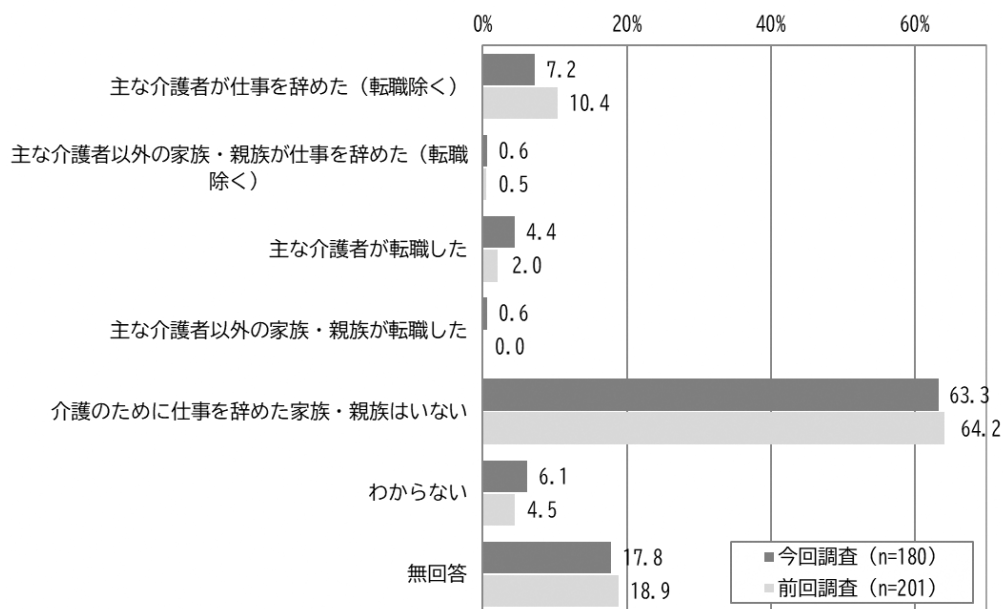
B票. 主な介護者の方について

※B票は、A票のQ15で家族や親族からの介護が「1.ない」以外を選択した方限定

Q1. 介護のため過去1年間に仕事を辞めた方

【MA】

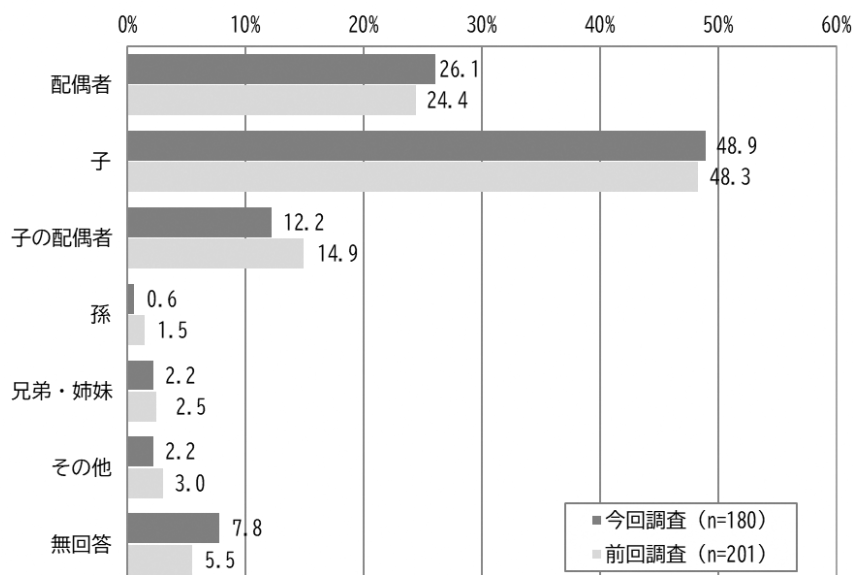
○「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が63.3%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が7.2%、「わからない」が6.1%の順となっています。



Q2. 主な介護者

【SA】

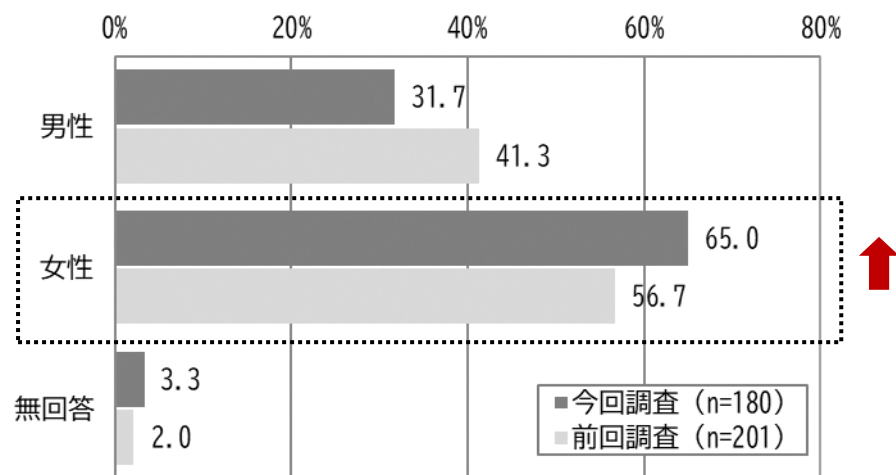
○「子」が48.9%で最も高く、次いで「配偶者」が26.1%、「子の配偶者」が12.2%の順となっています。



Q3. 主な介護者の性別

【SA】

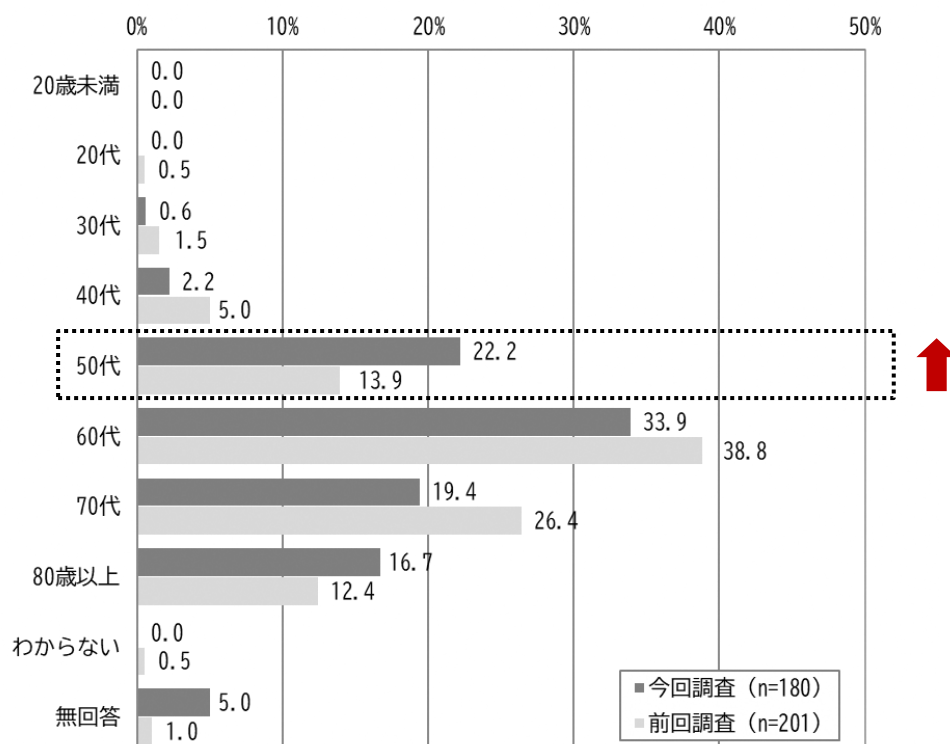
- 「女性」が65.0%、「男性」が31.7%となっています。
- 前回調査に比べ「女性」が8.3ポイント増加しています。



Q4. 主な介護者の年齢

【SA】

- 「60代」が33.9%で最も高く、次いで「50代」が22.2%、「70代」が19.4%の順となっています。
- 前回調査に比べ「50代」が8.3ポイント増加しています。

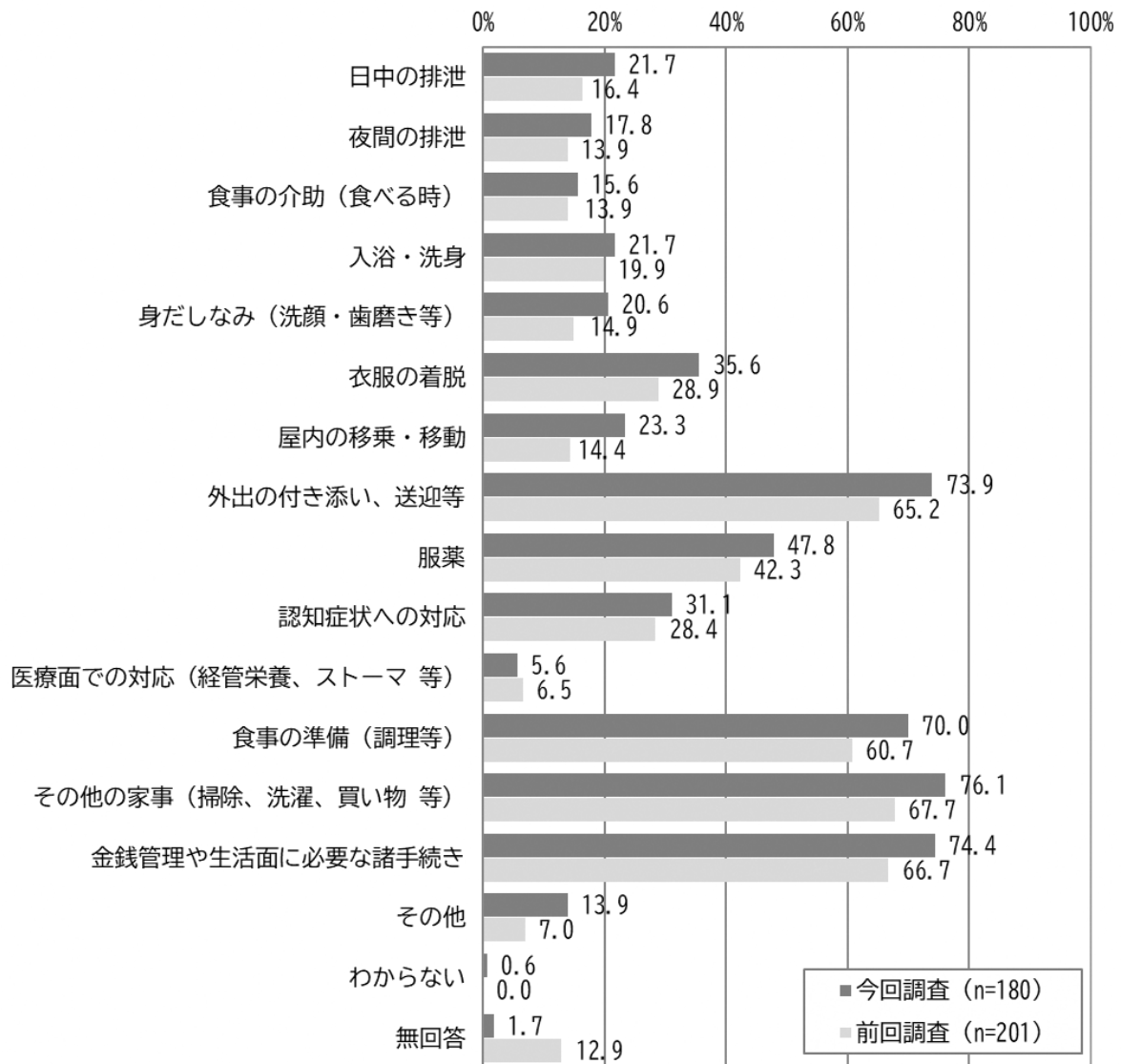


Q5. 主な介護者が行っている介護等

【MA】

○「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」が76.1%で最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.4%、「外出の付き添い、送迎等」が73.9%の順となっています。

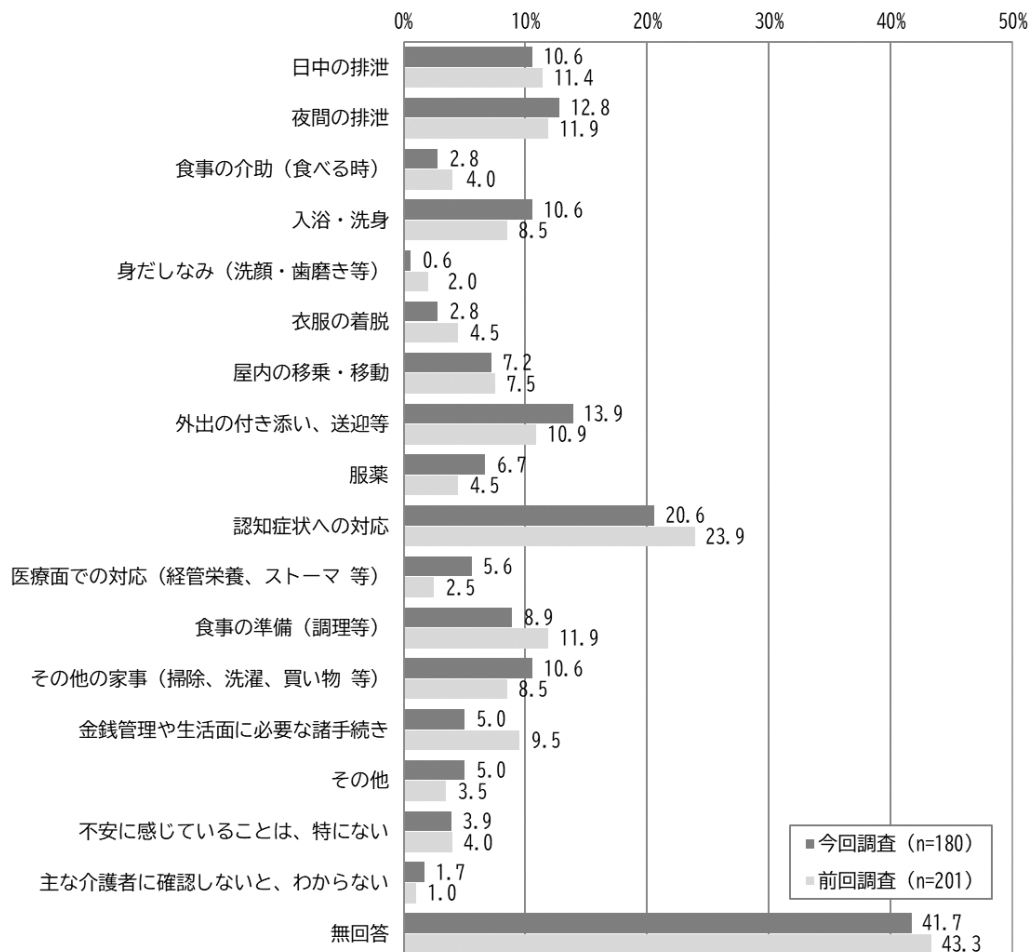
○前回調査に比べ、ほとんどの介護等で増加しています。



Q6. 主な介護者が不安に感じる介護等

【MA】

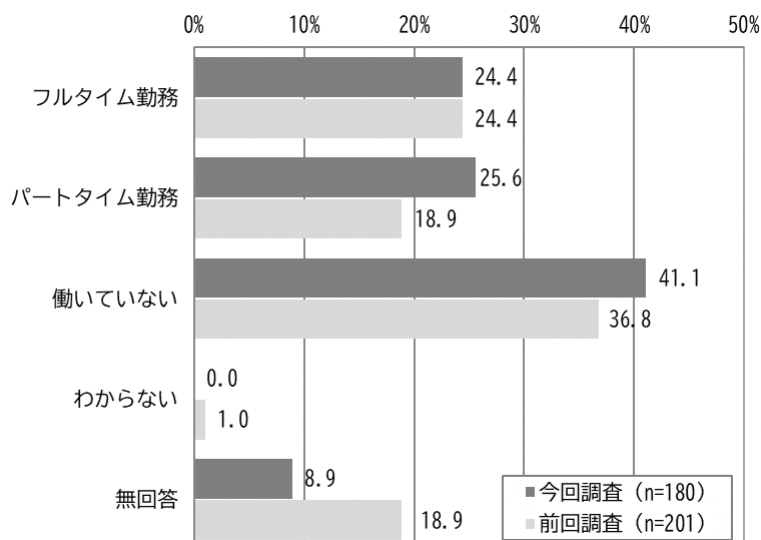
○「認知症状への対応」が20.6%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が13.9%、「夜間の排泄」が12.8%の順となっています。



Q7. 主な介護者の勤務形態

【SA】

○「働いていない」が41.1%で最も高く、次いで「パートタイムで働いている」が25.6%「フルタイムで働いている」が24.4%の順となっています。



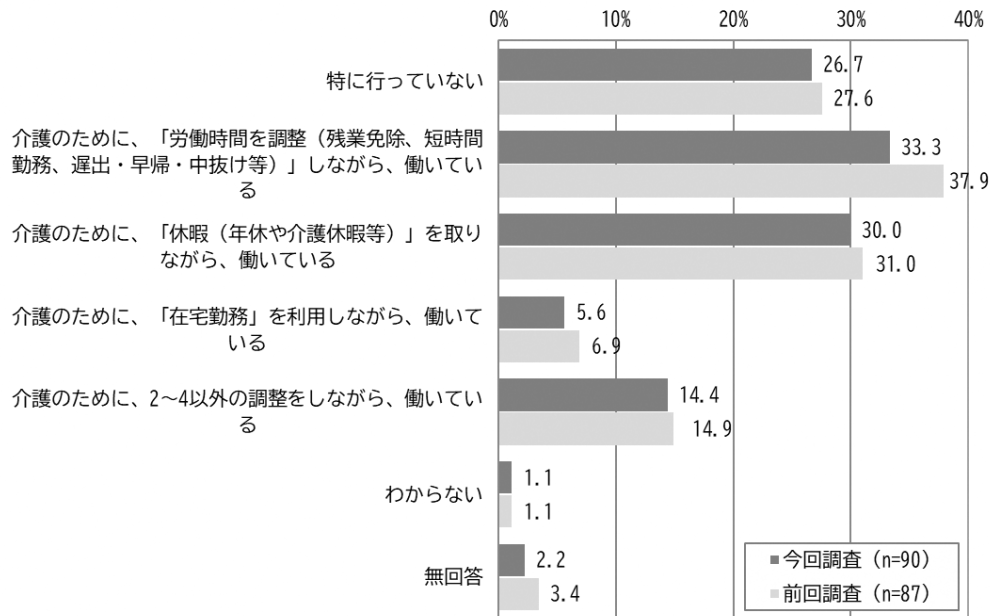
Q8. 介護のための働き方の調整

【MA】

(Q7で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を選択した方限定)

○「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が33.3%で最も高く、次いで「介護のために、「休暇」(年休や介護休暇等)を取りながら、働いている」が30.0%、「特に行っていない」が26.7%の順となっています。

○前回調査に比べ、何らかの調整をしている割合が減少しています。



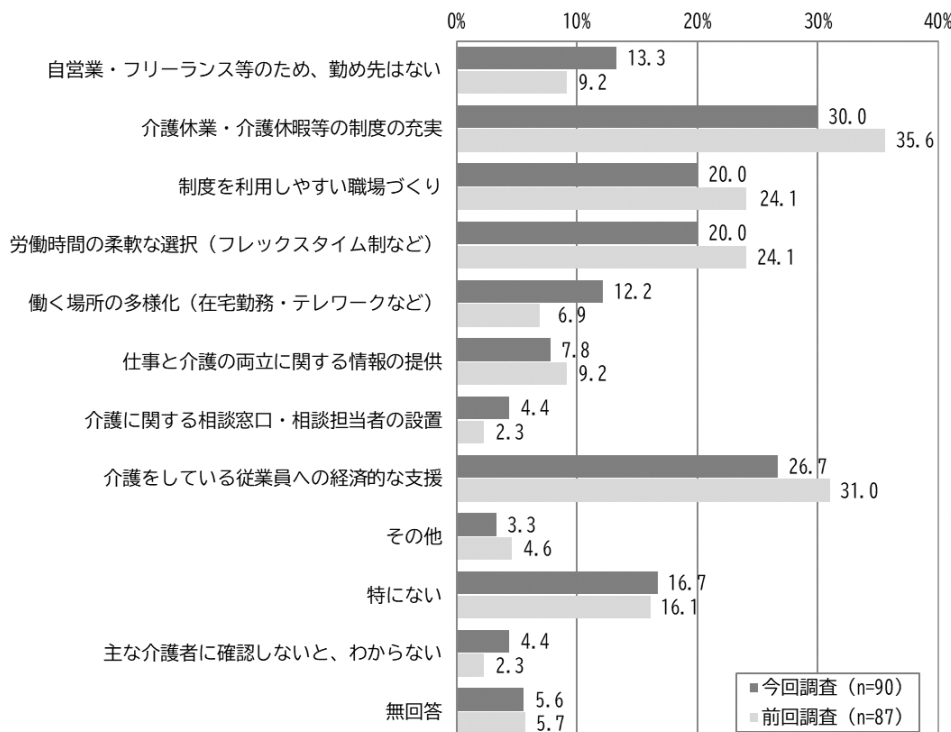
Q9. 仕事と介護の両立のために効果的な勤務先からの支援

【MA】

(Q7で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を選択した方限定)

○「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が30.0%で最も高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が26.7%となっています。

○前回調査に比べ「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が5.6ポイント減少しています。



Q10. 今後の就労継続見込み

【SA】

(Q7で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を選択した方限定)

○「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた『続けていける』が72.2%、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた『続けていくのは難しい』は23.4%となっています。

